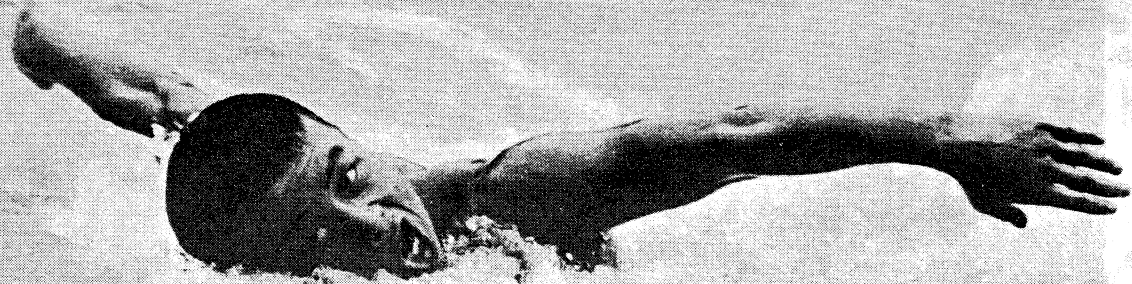


日本水泳連盟
機関紙

水泳

第 117 号
昭和 32 年 12 月

水



No. 117

"SUIEI"

Dec. 1957

Nippon Suiet Renmei
(Amateur Swimming Federation of Japan)

世界新記録 (長水路)

8'14 ザグレヴにおいて開催された FINA 理事会
で次の世界新記録が承認された

種目	時間	氏名	国籍	場所	水路	年月日
100 m 自由形	55.2	I. デヴィット	濠	シドニー	55 y 塩	1957- 1-19
"	54.6	"	"	ブリスベーン	50 m	1957- 1-28
110 y 自由形	55.2	"	"	シドニー	55 y 塩	1957- 1-19
440 y 自由形	4:27.1	M. ローズ	"	"	55 y 塩	1957- 1-12
800 m 自由形	9:19.2	Y. ブリオン	米	ニューヘブソン	55 y	1956-10-27
880 y 自由形	9:19.2	"	"	"	55 y	1956-10-27
100 m 平泳	1:12.7	M. スポジル	チエコ	ピエスタニー	50 m	1957- 5- 1
"	1:11.6	威烈雲	中共	広東	50 m	1957- 5- 1
100 m バタフライ	1:03.4	Y. ツンペク	洪	ブタペスト	50 m	1957- 5-26
"	1:01.5	石本隆	日	久留米	50 m	1957- 6-16
"	1:01.3	"	"	東京	50 m	1957- 7- 7

平泳・バタフライの規則改正について

競泳委員会

本年より平泳、バタフライの規則が改正されたがその改正点に若干あいまいな規定があり、これが種々な意見の相違や誤解を生んだようであるが、FINA の10月の公報ではこれに若干の注釈を附している。

第8条平泳規則のF項に「出発と折返しの一掻きと一蹴り以外は水面下を泳ぐことを禁止する。」とあったのについて、「泳者は水面に出るために一ストロークすることができる。」とあり、さらに、「腕、足の動作はそれが完全であると不完全であるとをとわず、一掻き、一蹴りで見做される。」となっている。即ち、出発、折返しの際、一掻き半、或は一掻き $\frac{1}{2}$ であっても二掻きと見なされるのである。蹴りも同様。最後に「水面下を泳ぐことを禁止する」ということについては「出発、折返しの後、第二のストロークを開始する瞬間から、頭の一部分が常に水面上に出なければならぬ。」となっている。

バタフライについてはその規則を誤解した国もあった模様で次の注釈を附している。「出発、折返し或は途中において泳者が水面下にある時は、足の蹴りは何回行っても差支えない。

目

次

昭和32年度日本新記録	2
今年度の各大会を顧みて	根 上 博... 6
今年度の飛込界	岩 佐 道 雄...12
アジア大会準備状況	小 出 靖 彦...13
今年のシンクロスイミング	串 田 正 夫...14
アジア大会候補選手	16
第5回水泳教室	赤 樫 卓 爾...17
第3回全日本中学校通信競技大会を顧みて	栗 村 中 丸...18
ジュニア水泳指導会実施のあらまし	20
中共遠征記	吉 本 弘...21
パリー大会に参加して	髷 田 武...23
最近のプールの建設状況について	深 谷 俊 明...26
海外ニュース	坂 本 宗 隆...30
紙上日・米・ソ対抗水上	坂 本 宗 隆...35
第2回日本泳法大会	山 口 和 夫...37
本年度水泳指導者養成講習会	小 泉 正 延...38
昭和32年度定例代議員会	40
連盟日誌	44

昭和32年度日本新記録

(対)は対記録

氏名	所属	時間	場所	月日	会名
男子競泳の部					
男子400米自由形					
山中毅	稲泳会	4:28.5	神宮	8-18	日本選手権
〃	早大	4:28.5	〃	9-8	日本学生
〃	〃	4:29.8	大阪	8-7	早関対抗
男子800米自由形					
山中毅	早大	9:25.5	神宮	9-6	日本学生
〃	〃	9:31.8	〃	9-7	〃
〃	〃	9:32.1	津島	8-5	早大対愛知
〃	〃	9:32.7	神宮	8-16	日本選手権
〃	〃	9:33.3	大阪	8-9	早関対抗
〃	〃	9:33.8	神宮	8-17	日本選手権
男子100米背泳					
長谷景治	稲泳会	1:05.6	神宮	8-18	日本選手権
〃	早大	(対)1:05.8	大阪	8-9	早関対抗
〃	〃	(対)1:05.8	瀬高	9-15	早大対九州
男子200米背泳					
富田一雄	日大	2:23.3	神宮	8-17	日本選手権
長谷景治	早大	2:24.4	〃	9-7	日本学生
男子100米平泳					
◎古川勝	日大	1:13.3	神宮	9-8	日本学生
男子200米平泳					
◎古川勝	日大	2:42.0	神宮	9-7	日本学生
男子100米バタフライ					
石本隆	日大	1:01.0	高知	9-14	日大対高知
〃	〃	1:01.2	神宮	9-8	日本学生
〃	〃	1:01.3	〃	7-7	日大対中大
〃	〃	1:01.4	〃	9-8	日本学生
〃	〃	1:01.5	久留米	6-16	日大対九州
〃	〃	1:01.6	神宮	8-17	日本選手権

(2)

目次に戻る

氏名	所属	時間	場所	月日	会名
石本 隆	日大	1:01.7	神宮	9-6	日本学生
〃	〃	1:01.8	〃	8-16	日本選手権
増永 文昭	〃	1:02.7	〃	9-6	日本学生
石本 隆	〃	1:03.3	〃	8-17	日本選手権
増永 文昭	〃	1:03.3	〃	9-8	日本学生
〃	〃	1:03.4	〃	7-7	日大対中大

男子 200 米 バタフライ

◎石本 隆	日大	2:22.0	神宮	7-7	日大対中大
-------	----	--------	----	-----	-------

男子 400 米 メドレーリレー

富田, 古川, 石本, 石原	日大	4:17.8	神宮	9-7	日本学生
----------------	----	--------	----	-----	------

女子競泳の部

女子 50 米 自由形

佐藤 喜子	天理大	30.6	大阪	8-31	関西学生
-------	-----	------	----	------	------

女子 100 米 自由形

佐藤 喜子	天理大	1:06.0	天理	7-27	奈良予選会
〃	〃	1:06.3	大阪	6-29	関西選手権
〃	〃	1:06.5	〃	〃	〃
〃	〃	1:06.7	天理	9-29	奈良選手権
〃	〃	1:06.8	〃	8-26	天理体育
〃	〃	1:06.9	大阪	9-8	関西女子
〃	〃	1:07.3	天理	9-1	国体奈良
〃	奈良県	1:07.4	浜松	9-24	国体女子
〃	天理大	1:07.6	天理	6-2	天理記録会
〃	〃	1:07.6	神宮	8-16	日本選手権
〃	〃	1:07.7	天理	8-27	天理体育
〃	天理学園	1:07.7	別府	11-10	天理学対九州
〃	天理大	1:08.0	天理	9-1	国体奈良
神野 眸	淑徳 SC	1:08.0	大阪	9-8	関西女子
〃	〃	1:08.1	神宮	8-17	日本選手権
佐藤 喜子	奈良県	1:08.3	浜松	9-25	国体女子
神野 眸	愛知県 (対)	1:08.4	〃	9-25	〃

女子 200 米 自由形

佐藤 喜子	天理大	2:26.5	大阪	6-30	関西選手権
〃	〃	2:26.8	天理	7-27	奈良予選会
〃	〃	2:28.0	〃	6-9	奈良記録会

氏名	所属	時間	場所	月日	会名
佐藤喜子	天理大	2:28.4	大阪	6-30	関西選手権
〃	〃	2:29.2	大阪	9-8	関西女子
〃	奈良	2:29.7	天理	8-26	天理体育
女子 400 米 自由形					
和田映子	五条高	(対)5:23.8	神宮	8-17	日本選手権
女子 800 米 自由形					
和田映子	五条高	11:06.9	神宮	8-18	日本選手権
〃	〃	11:08.2	大阪	8-10	近畿高校
〃	〃	11:18.1	神宮	8-24	日本高校
大高幸子	伊都高	11:22.6	和歌山県	7-7	和歌山選手権
〃	〃	11:25.0	神宮	8-18	日本選手権
和田映子	五条高	11:26.9	大阪	6-30	関西選手権
大高幸子	伊都高	11:27.6	〃	6-30	〃
和田映子	五条高	11:29.1	〃	9-8	関西女子
〃	〃	11:29.6	天理	7-27	奈良予選会
大宮涼子	東洋レ	11:29.7	大阪	8-3	大阪選手権
〃	〃	11:31.9	神宮	8-18	日本選手権
和田映子	五条高	11:39.8	大阪	6-30	関西選手権
大高幸子	伊都高	11:41.3	大阪	6-30	関西選手権
佐藤喜子	天理大	11:41.4	天理	6-2	天理記録会
和田映子	五条高	11:42.3	天理	6-9	奈良記録会
佐藤喜子	天理大	11:43.4	〃	6-9	奈良記録会
芝原笑子	輪島高	11:43.4	神宮	8-16	日本選手権
大宮涼子	東洋レ	11:45.0	大阪	6-30	関西選手権
〃	〃	11:46.3	神宮	8-16	日本選手権
大高幸子	伊都高	11:46.5	神宮	8-18	日本選手権
松田昌子	東洋レ	11:46.6	大阪	6-30	関西選手権
和田映子	五条高	11:47.4	神宮	8-18	日本選手権
大宮涼子	東洋レ	11:50.4	大阪	6-30	関西選手権
松田昌子	〃	11:50.8	神宮	8-18	日本選手権
和田映子	五条高	11:51.4	天理	8-4	奈良高校

女子 1500 米 自由形

和田映子	五条高	22:19.4	天理	6-9	奈良記録会
中岡角子	〃	24:07.5	〃	〃	〃

女子 100 米 背泳

村瀬里子	天理学園	1:20.0	別府	11-10	天理学対九州
〃	〃	1:20.0	〃	〃	〃

氏名	所属	時間	場所	月日	会名
岡本節子	奈良県高	1:20.2	浜松	9-25	国体女子
村瀬里子	五条理大	1:20.3	天神	8-16	日本選手権
岡本節子	五条理大	1:20.4	天神	9-29	奈良選手権
村瀬節子	五条理大	(対)1:20.6	天神	8-17	日本選手権
雑賀佳子	天理高	(対)1:20.6	〃	8-24	日本高校
女子 200 米 背泳		(対)1:20.6	大 阪	9- 8	関西女子
村瀬里子	天理大	2:52.6	天神	9-29	奈良選手権
岡本節子	五条理大	2:53.1	天神	8-18	日本選手権
〃	〃	2:53.1	〃	8-25	日本高校
〃	〃	2:54.2	天理	8- 4	奈良高校
村瀬里子	天理大	2:54.7	大 阪	6-30	関西選手権
岡本節子	五条理大	2:55.5	大 阪	8-11	近畿高校
〃	〃	2:55.6	大 阪	9- 8	関西女子
田淵恵子	五条高	2:55.6	大 阪	9- 8	関西女子
岡本節子	〃	2:55.8	天神	7-27	奈良予選会
〃	〃	2:56.6	天神	8-16	日本選手権
村瀬里子	天理学園	2:56.6	別府	11-10	天理学対九州
岡本節子	五条理大	2:56.7	大 阪	6-30	関西選手権
雑賀佳子	天理高	2:56.8	大 阪	8-16	日本選手権
村瀬里子	天理大	2:56.9	大 阪	6-30	関西選手権
〃	〃	2:57.0	天理	6- 2	天理記録会
岡本節子	五条理高	2:57.3	大 阪	8-11	近畿高校
雑賀佳子	天理高	2:57.3	大 阪	9- 8	関西女子
岡本節子	五条理高	2:57.4	〃	6-30	関西選手権
田淵恵子	〃	2:57.5	〃	〃	〃
荒川照子	宮崎県高	2:57.8	旭化成	7-14	九州各県
田淵恵子	五条理高	2:58.0	大 阪	6-30	関西選手権
〃	〃	2:58.0	〃	8-11	近畿高校
村瀬里子	天理大	2:58.0	〃	9- 8	関西女子
〃	〃	(対)2:58.2	〃	〃	〃
田淵恵子	五条理高	(対)2:58.2	〃	〃	〃
女子 100 米 平泳					
◎高松好子	天理大	1:24.9	神 宮	8-16	日本選手権
女子 200 米 平泳					
◎高松好子	天理大	2:57.1	神 宮	8-16	日本選手権
女子 100 米 バタフライ					
◎宮部シズエ	天理大	1:14.2	大 阪	9- 9	関西女子
女子 200 米 バタフライ					
◎宮部シズエ	天理大	2:49.0	大 阪	9- 8	関西女子
女子 400 米 メドレーリレー					
◎村瀬, 高松, 宮部, 佐藤	天理大	5:07.8	大 阪	8-31	関西学生

備 考 本年5月1日より国際水連及び日本水連の競技規則の変更によって平泳とバタフライの泳法が変わりましたので該種目(平泳, バタフライ及びメドレーリレー)は本年の最高記録を以て日本記録とする。但し世界標準記録を破ったものは全部日本新記録とするということに決定を見ております。
 本表中の◎印がその最高記録であり(便宜上本表に挿入)男子100mバタフライ, 男子400mメドレーリレーは世界標準記録を破ったものであります。

今年度の各大会を顧みて

根 上 博

本年の水泳も浜松市の元城プールで開催された国体の水泳競技大会が盛会裡に終了してシーズンの幕を閉じた。そこで水泳連盟が直接手掛けた日本選手権を始めとする5つの競技会に就いて総括評を書く様に編輯委員長から命ぜられた、これらの競技会は水泳連盟の主要競技会であり新聞紙上にラヂオ、テレビ、に予想やら戦評やら技術評が専門家によって解説され筆にされている。今更想い出し、それらのことを綴っても現実の事態が起っている瞬間や直後の生々しさ、しかも適確な話や紙上に載った記事に比べ、全然魅力のないものになることが明白であり、勤労者大会を除く他の4つの競技会に笛が吹きつつ定められた番組の時間に追れ乍ら、ただひたすら選手諸君が気持良く全力を発揮しレースが出来ることのみを希い、大過なく競技会が終ることのみを希って、プールサイドを往復していた笛吹野郎に今更総括の評でもないとおことはりしたが、許されないので無責任な思いつきを綴り合せた次第。読んでいただく方々にこの事を予め御諒承していただき度い。

8月の15日から3日間神宮プールで開催された日本選手権大会を皮切りに日本高校選手権大会、勤労者大会、日本学生選手権大会、国体夏季大会水泳競技大会、と5つの水泳連盟の主要競技会は僅か5週間程の間にばたばたと挙行され関係者に何か慌ただしさを感じさせた。この様に短期間に5つも競技会を行ったことは珍らしいことである。この日程を企画した頃はたしかモスコウ青年祭へ選手を派遣する構想の下に為されたと記憶している。その後連盟の執行部が変わって今年は海外へ選手は出さないし、海外から招ばないといった方針を樹てられた結果ではあろうが、早慶戦、三大学対抗、のシーズン開幕の競技会を終わってから日中戦があったのみで水泳シーズンの最盛期に入りながらも仲々競技会が連盟のお膝下の東京でやられなかったことは固定したファンを失う心配があった。最近の様に各種スポーツが盛んになって来た時、夏は水泳のシーズンで他の運動競技はやらないといわれたのは過去のことであり、800万の人口を擁する東京でさえ今日の半分に満たない人口の東京の水泳ファ

ンと、現在のファンと比べ人口の増加に比例しファンの数が増えているとは申されない。固定したファンを沢山持つことは選手の層を厚くすると同様に大切なことで、凡そ観客の少ない競技会ではどんなにいい内容の競技が行われていても無形文化財的取扱を受けること必至である。かくの如き意味合いからも今年のスケジュールは執行部の変った時に方針を樹てられたと同時に修正されるべきであった。大学選手にとって一番伸びる7月の最盛期に早大が中共に遠征し各地転戦で著実な実力を養った以外は各大学共身のある練習をみっちりしていなかったらしく日本選手権大会にその結果は現らわれていた。オリンピックの翌年は新旧選手衰盛の現らわれる時期で記録的にも香しくないといはれて来たが早大中共遠征の主力である古賀、長谷、山中等は遠征による度々のレースで充実した力を身につけ他のオリンピック選手と共に選手権大会では選手更新どころかベテラン振りを遺憾なく発揮し貫禄を示したことは大いに賞讃される可きであった。各種目に優勝し、選手権を獲得したのは彼等であった。勿論若手の進出も目覚ましく高校選手勢は200m自由形に福井400mの石井、1500mの石井、丸山が上位入賞した他自由形では古木、坪田、パタフライの那須、田中、岡村が決勝に進出した。然しその数は僅か8名であるに止まり自由形短距離、平泳、背泳には全然決勝進出することも出来なかったことは明日の水泳界の発展の為め憂う可き事柄であった。これは高校選手の第一線選手の参加数の少なかったことによる。高校選手及びその指導者は高校選手権大会迄の期間が少なすぎ東京へ長期間滞在が不可能であったことも理由の一つであったろうが高校大会に比重を重く見ていることも否めない。

これらのことが選手権大会への出場意欲を低下させたものであろう。高校大会は府県予選会、ブロック大会、本大会と段階があり其他地方の大会が続いて選手自体は競技会に追はれて指導者も日本選手権大会やその地方予選会の如き高校生が中心である可きに、実際は参加することを重要視しておらないのではないだろうか。一方加盟団体にとって選手権大会の予選会の開催は義務付という

負担があり予選会を開催することによって加盟団体の存在意義を感じ乍ら単独競技会としては高校大会の府県予選会に比較して貧弱な内容の競技会を開らいて割り切れないものを感じている加盟団体が沢山あるのではないであろうか。

又その反対に勤労者大会とか国体、高校の地方予選会が段々と盛んになり加盟団体の力の象徴ともなる全国大会の府県成績にやっきとならせるのではないであろうか。勿論全国的な競技会の何れにせよよい成績を収める可く一生懸命になることは大いに結構でその為に水泳が盛んになり、強くなりよい選手が生まれお互いに水泳に関心を持つものの唯一の共通した願望であるからである。只ここで問題になるのは地方予選会を経て出場の権利を持って申込みをする選手が本当に日本一を争うに足る選手であれば幸いである。

日本一を争う選手が多数集まって最高のレースを展開されることがファンは喜び関係者も競技者も希っているところである。その意味からオリンピックの参加にいはれる「競技に勝つことが目的でなく参加することに意義がある」と同じ様に選手権大会も参加すればよいので実力云々は不必要といはれる恐れはあるが、この参加の解釈に一言したい。参加とは優勝を争う力のある素質のある競技者の参加をいうので、プログラムに名前が載り予選でお茶をにごすのは名誉ある参加者とはいえないのでオリンピックの参加もそうであると考えたい。例年棄権者の一番出るのは日本選手権の予選といっても過言ではない。この事は何を物語るか反省して見る必要がある。競技会をつまらなくし殊に長距離レースに1人だけゆうゆうと何時迄も泳がれるのは本人の一生懸命は賞讃しても何れか方法を講ずる必要があるのではないか。コールドゲームやTKOといった制度で勝負あったを示す制度の競技会が他にあるのだから1500mならば20分を経過して猶競技を続けるものには競技中止を通告し終了させるといった方法はどうかであろう。競技会の運営に関しても水泳連盟が現在やっていることが最もよい方法であるとは限らない。むしろ旧態依然として進歩の跡が見えない。FINAの規則にも忠実でないしそれより優れているとも思えない。今年は平泳等の規則改正で種々と解釈に疑義が出たりして競技者中に反則者が出たことが例年に比して多かった。

今年の様な場合は執行部自体が決定に迷った程であるから加盟国体を通じて流されたものが選手やその指導者に徹底し、呑み込まれたか甚だ危いものである。

若し不徹底であり、競技者がそれに習熟していなければ反則にされた競技者こそはいい面の皮で競技会運営に従う各役員は如何に満足に競技会を進行させるかに努力

す可きかであって、反則者を鵜の目、鷹の目で見付けることではないと思う。法律の番人の判事や検事であっても犯罪と決めて罰するには極めて慎重で「疑わしきは罰せず」といっている位だから本末を転倒しない様であり度いものである。今回の規則の改正に一番影響を蒙ったのは平泳で3大学対抗の頃から見て短期間に立ち納り優勝するとは夢にも思はれなかった古川が100m、200mの両種目に選手権を獲得したのは只々敬服するのみである。本人の努力は並々ならぬものがあつたであろうが長年鍛え上げた体や具はった素質は見逃すことは出来ない。如何に鍛錬しても水泳に適するよい素質の身心を持ったものでなければ大成しないのは明白で今後の選手発掘には素質を見極める目を持った人々によって成さる可きである。よく指導者、指導者と呼ばれるが誰もが大学教授並の大学者であっても幼年、少年、青年と完全な教育は万人になされまいと同じ様に、一人の選手を作るにも育つ段階に於てその時期その時期の指導者によってなされ最後に完成されるべきでなからうか。

勿論個々によって体格の完成時期や何かの相違があり、泳ぎの完成時期も同じ様に異なるので計算通りには行かない。個人がその有する人力だけでやるものは易く行は難しの類であり、それだけに又面白ともいえるものである。100m、200mの自由形に優勝した古賀の如きも2分7秒7の好記録で選手権を獲得したが、昨秋このレースに示した意欲を以て練習に励んでいたらオリンピックでももっといい成績を収め得たのではなからうか。思うに中共に遠征して止むなく頑張ったレースの回数が今年の成績に直結させたと考えたい。背泳に100m1分5秒6を出し優勝した長谷にも同じことがいえることで、一段とたくましさを増したリズムカルな泳ぎは当代一である。

世界記録の作製機械の石本も60秒台実現かと報道関係にぎはしたが61秒で終り200mの方も余り香しくない2分22秒台であったが立派な泳ぎである。只スタート直後の出足しとゴール直前の力を使い切った時期とでは泳ぎが変わってくる。腹部のうねり深く蹴られる強い肢は振巾が大きすぎるためかピッチのあがるうちは力強く立派だが疲労と共に無理が目立ってスピードがにぶっている。200mとなれば更に泳ぎが変わって好記録が生れていない。決して石本の泳ぎにけちをつける意途もない。立派な泳ぎで賞讃に手放であるが新しい泳法であるだけ批評して見ることもよいのではないかと敢へてしたまで。乞う寛恕。

何れにしてもスポーツとは体力と技術がマッチして醸し出される交響楽でリズムが大切であり、間が必要である。然し水泳は他の競技と異り水の抵抗の大きな競技で

長い距離では若さが特に必要であると思われる、この点1500m自由形では若い高校選手の進出が目覚ましい。本年もその例に洩れず決勝出場者の約半数は高校でもあったが、山中の様にダイナミックな選手が見当らなかつた。山中は400mに4分28秒の大記録を出し、1500mに18分こそ切れなかつたが遠征で長距離泳者としてじっくり長い距離を泳ぐ機会に恐らく恵まれなかつたことを思い合せるにむしろやっとな賞讃すべきである。超音速機が一つのスピードの壁を抜くのに非常な苦勞をすると同じ様に17分台で泳ぐラップは卓上で計算は簡単に出て泳ぐものに課せられる各ラップのスピードは生易さしいものではない。

記録に惚れこむ前に水中深く打たれる肢、股の動き、腕の掻き、一つ一つこそ注視し頭に入れて第二の山中を見付け出すいきで資料にすべきである。100人の18分台の選手を持つことより1人の17分台の選手を持つことがいかにオリンピックの様な競技会では大切かは論を恃たない。この意味から現在の水泳日本は満足すべき状態にない。再び世界の王座に就くためには人工衛星の飛ぶ今日では広い底辺からピラミット型に積み、築き上げた頂点の高さを論じ合う時代でない。広い厚い層を基盤として打ち上げられた人工衛星でなければ最高とはいえないし高い記録、華々しい勝利は得られない。人工衛星を打上げたソ連とアメリカの科学文化の普及水準を比較して見れば自ら解明されることである。優秀な素質の選手の発掘にこそ関係者は全力をあげて努力すべきである。殊にプロ野球を始めとし各種スポーツが選手養成と自己の各種目のスポーツの発展に血まなこになっている時、先人の築いた遺産に安逸の夢をむさぼってはいは斜陽どころか、黄昏——のスポーツになる憂がある。全国の水泳関係者はあげて優秀素材の発見に努力しこれを鍛錬しなければ再度王座につくことは難かしい。選手権大会に於ける男子競泳の各選手の記録や成績は前述のオリンピック選手以外では卒業して油ののって来た清光の100mや社会人の平泳菊地の外は高校生大学選手の若手で何人かは目立っていたが格別取り立てて特筆大書すべきものはおらなかつた、又大部分の自由形選手に見られる平面的な引張る泳ぎは何んとかならないものであろうか。山中に見られる立派な泳ぎ、古賀のスプリントと素晴らしいものはあるが平泳、バタフライ、背泳に更にスピードを増して記録を短縮するには更に研究され合理的に訓練されなければならない。バタフライの1ストローク3ピート法とか背泳にもっと身長のある選手によってクロールの泳法をさせるとか平泳の上下動のない泳法とか研究すれば記録の短縮はまだ可能な筈である。泳ぎの進歩の課程に於て未だ幼稚な時期は一生懸命頑張っても力を

抜いても外見上では差が見えないもので、過去の女子選手一般の傾向であつて幼稚さを感じさせたが、今年は長距離の種目も増え急に進歩した様な印象をファンに与え、日本新記録の続出であつた。然し内容はそう進歩した筈もなく、佐藤の100mは一つの進歩と認めるが未だ安定した泳法を身につけていない。バタフライの宮部の1分14秒は大したもの毎回安定してこの記録で泳げたら世界の第一線の仲間入りである。高松の平泳も同様で待望の2分57秒は喜ばしい限りで一年遅かつたことが女子水泳の為に惜まれる。進歩したこれらの選手の他は格別進歩も見当らず、前記の3人にしてもまだまだ泳ぎは未完成で更に記録を短縮することは可能であるし、よい躰になってスタミナも十分持っている。

女子選手といえども超一流になるためには男子選手と同様たくましい身心をもった優れた素質をもっていなければならない。女子の場合特に目標を世界の最高に置いて井の中の蛙になることをさげねばならぬ。第一線に到達出来たこれら2、3名の選手にやがて追いつく若手が出て更に進歩して行って貰い度い。

現状では神野、和田、大高、島田等之に次ぐ他格別なものも居ないが輪島の芝原の素質には目を見はる価値がある。本人の努力と良き指導者の助言は男子の山中と同じ様な逸材になるのではないかと期待される。一方背泳はまったく進歩の度合が僅少で寂しい限りである。新泳法でも創案してはどうであろう。久しく待ち望まれた全国的な中学生の競技会が形はどうあろうとも選手権のプログラムに入れて開催されたことは大成功で、英才教育をするにも素材を発見するにもよい事である。その発刺とした鍛えられつつある輝く身心を見ると次期の日本水泳も安泰であると安心させられるが、更によい身体の中学生がもっと沢山集ることが希望される。只選手権大会の準決勝レースと決勝レースの間にこれら若駒のレースを入れたことは激しく日本一を争う大会の焦点をぼかしてしまつた様な印象を受けた。番組論今後の課題である。

競技会の構成は役員と選手だけでなく、報道関係者と観客が一体となつて競技会の雰囲気盛上げ高めるのでなければよい競技会にはならない。特に役員は舞台の重要人物で選手以上に真剣になつて競技の運営に当らなければならない。応援する選手関係者も競技のさまたげになると思われる行動は厳重に慎みたいものである。又選手も事前に十分なウォーミングアップをしていれば、スタート直前になつてダラダラと泳いで、競技の進行をさまたげることはない。こんな事はレースに有効なウォームアップとは思われぬし、止めたい悪いくせである。又日本の第一流の選手権を争うのにも拘らず100mの自由形や背泳ではクイック・ターンをやる選手が何人あつ

たか、クイック・ターンが有効であると認めて、奨励しているのに幾年もこの調子では誠になげかかしい事で、主要競技だけでなく全国の競技会の短距離ではオーバーフローを握ったら反則といった競技規則を制定してはどんなものであろう、水泳日本のメッカ神宮プールは競技会運営の上からは過去の時代のものであった。国体を機会に地方には完備した近代的施設が作られ競技会が行われているのに、東京が水泳連盟のお膝下に旧態依然とした垢抜けない施設で満足しなければならないことが競技運営も漸新的なものにならない原因であろうか。兎も角日本選手権大会は久し振りに外国選手の参加しない内輪だけの大会となり、山中の大記録を始め昂奮すべき場面も少なかったが何か印象の薄い競技会に終わった。1週間も置かずに行われた高校選手権大会は次代を背負うというより当代日本水泳の中核である高校水泳選手の舞檜台で、参加者数に於ても年々その数を増し盛んな会になっている。

戦後の新しい力である高体連の組織は大した動員力である。高体連のお蔭で高校大会が盛んになったけれど日本選手権大会に選手を送らない様な事が起きたら日本水泳界は高校大会の盛会を手放しに喜んではいられない、新しい時代に種々と新しい機構が出来て文化向上発展に尽すことはよいに違いない。その反面に連盟を運営して行く執行部の接触面も多角的になって従来の様に簡単に好きな者同志の話し合でやって行けた時代が過ぎ去ったことを認識しなければならない。戦前は旧中等学校の大会を学生連盟の学生の手で競技会を運営していたことを想起するとうたた感慨に耐えない。ともあれ府県予選会、ブロック大会を経て集まって来た高校の精鋭が雌雄を決し随所に面白い昂奮のレースを展開したがそれ程観客を動員することが出来ないのは番組の編成や競技時間に工夫の要がありはしないだろうか。全国から沢山参加することは結構なことではあるが各ブロックの地域による実力の差の問題がある。勿論弱いブロックの選手は携まない努力で第一線に進出して貰い度いものである。各ブロックの出場者数も現状では平等が必ずしも平等でないかも知れない。工夫すべきことである。又一番伸び盛りのこの年代に府県予選に出場した種目から変更が許されないことも不合理で何か救済規定を設けてはどうであろうか。大卒の人数には変りはないし一人でも強い選手が出る事が望ましいし、明日では遅すぎることもあり得る訳だ。お互いの約束が規約であり納得出来る方策を考えて会を盛んにすればと希って止まない。前にも述べた通り他のスポーツの選手層の獲得の努力は大変なものであり。プロ野球にあこがれて野球に進む少年の数はあなどれない数である。今日、水泳の選手を作ること

が段々と難かしくなると思われる。少なくとも競技の参加を容易にし選手の層を増さなければ問題にならない。高校選手の体格を見ていると記録の進歩に比例して体は決して良くなっていない。むしろ低下している様な印象を受ける。如何に優れた技術も体力に敗れることのあるスポーツであることを考へる必要がなかろうか。国民体育大会のお蔭で全国的にスポーツの施設は作られ、スポーツ人口は増えては来たがスポーツ人口は一定の限度がある筈、しかも体協傘下は30団体を越える今日各団体共我が田に水を引かんと努めているのだから水泳関係者も素材の発掘に懸命にならなければ他団体の後塵を拝さねばならない。

高校大会の各種目の結果を見ると日本選手権に参加したもの、しない者種々で、参加したのもでも僅か3、4日の間で調、不調と明暗二筋に分かれている、選手権大会に活躍した石井は明に福井、丸山は暗と中谷は明に昇り調子になって調子の持続、持って行き方の難かしさが解る。自由形の100mでは中谷の58秒台見上の59秒と1分を割ったのは2人で他は1分1、2秒といったものばかりで200mは決勝4番迄2分12秒台の激しいレースを展開し福井が優勝した。若さの溢れる高校選手である短距離陣にしては中谷、見上の200mの弱さが目立ち次代の鈴木、谷、古賀のトリオに代るには力不足を感じさせた。400mでは飛び出し戦法で非常に早いペースで泳いだ北原も体力不足が最後の瞬後に後退し、石井に敗れはしたが予選4分39秒台を出しその300m迄のラップは4分35秒位の記録が実現可能を思はせ若い年代の此種の飛び出しは好感のもてるもので、たとへレースに敗れはしても高い記録に挑む意欲は経験と共に将来の大成を約束させるもので賞讃したい。石井は40秒こそ割れなかったが1500mでは選手権に次いで18分台を再現しその華麗軽快なストロークは独特なもので観客を魅了した。特筆すべきは400mで6着が4分46秒4といった大学選手に劣らない力を示したことである。只1500mでは石井を除いて19分を割れなかったのはどうしたことであろう。総じて長距離泳者の泳ぎが荒削りというか、拙劣というか、無頓着な只頭張りだけの泳ぎが目立つ。又変則ビートの泳者も多くなって来た。短距離ではそれ程成功していない変則ビートも中長距離ではアルネボルグ以来相当成功している選手が多い。変則が正常か何れのビートが強いか今後に残された研究課題である。変則ビートの泳ぎは肢の運動によって心臓に受けるロードの掛り方が少ないので、長い時間頑張るには適すると思はれる。しかしながら腕の掻き方が短くなる、又肢の打ち方とのタイミングの調整の問題やら体形や腕の力の強さ、肢の強さによって纏めるべき泳の大きさの定め方の難かしい点

がありラストスパートの一瞬も正常ビートに劣ることも考させられる。背泳も技術の難かしさや特殊の体形を要求されるためかよい選手、記録も見当らなかったのは残念であった。平泳は新泳法をマスターしたものが少く背泳と同様技術の泳ぎで幾つかの泳ぎ方に泳者の練習を待つ可きで規則改正一年目であることを考えれば期待するのが無理である。バタフライは出雲の那須の100,200mの両種目の優勝は武市、吉無田、田中も顔色なかった。新しい種目であるだけに今後も新人はどんどん輩出することであろう。泳法も幾変遷することであろう。只希くば泳ぎに最も必要な安定した姿勢を得るためにも、呼吸は前方でして貰いたいものだ。女子の方は相も変わらず強い地方の選手が殆んど上位占めて変りばえもしないが段々と層の拡がり感が感じられ僅かに救はれるものがあった。往年の選手を沢山出していた静岡、愛知、広島が伸びて来たことは奈良、和歌山にも刺戟を与えることであろう。

記録的には和田の800m自由形が目立つ以外は取立てゝ見る可きものもない。女子競泳は男子競泳の華々しさの陰に埋れた未開発のもので、高いレベルに迄引上らる可きものである。運動競技に適した少年の非常に多い数が野球を楽しみプロ野球を目指している昨今では、女子こそ開発すべき日本水泳界の礦脈ではなからうか。関係者は根気と温情を以てこれに当るべきである。選手権大会にオリンピック参加の佐藤、神野、島田が活躍しているのに伸び盛りの和田、大高は和田の800mを除けば昨秋の実力さえ出せないのはどうした訳か。高松、宮部が大学へ進んでから力をあげ社会人となって強くなる選手が多いのは何を物語るのであろう。体力充実と経験によるものであろうか。特に秀でた天才は別として長い経験が実力を向上させるのではないか。

泳ぎの技術は一人一人に備ったもので行き悩みや一つの段階を乗り越える時にこそ指導者が必要なので、指導者が泳法の秘法を編み出しても万人の記録は向上させられない。天才は教えられなくとも理論に適い、鈍才は教えられても理論通りに行かず記録を作ったり競技会に勝つことも出来ないものだ。自らに備った才能は自らが発掘すべきで練習に次ぐ練習で掘出され磨かれなければならぬものである。

女子選手も泳げ、泳いで筋肉を作り、練習に耐えて泳ぎを作らねばならぬ。漫然と泳いでいては天分は磨かれない。高校選手権大会に次いで神宮プールから鎌倉プールへ舞台を移して開催されたのは第8回勤労者大会である。折から台風の前振りで海浜に近いこのプールは残暑の候というのに寒さ身にしみる有様であった。全国から集まった働く者の水の代表はぎっしりつまった2日間の日程の番組に従って競技会を行った。想い出せば第1回

大会を宇都宮のプールで開催し、働く者の水泳大会を始めてから幾多の移り変りを経て来たが、この大会も開催の方法や種目にも再検討をされるべき時期に入ったものと思はれる。8回勝った八幡製鉄の偉業は賞讃に値いするものであるけれども、現行制度に於けるこの大会は府県を単位とする。その府県内の事業所が参加の一単位であって、数府県に分散した事業所のものは一チームとして纏れない運命にある。六郷川をはさんで蒲田と川崎に工場や事務所のある会社の水泳選手は一緒になれない矛盾がある。一府県内に3万数千の従業員と立派な運動施設を有する大企業の八幡製鉄には、僅かの差まで迫れても追い抜くことの困難は大変なものである。それでもこの大会に盛んになるにつれて打倒八幡をねらって、水泳選手を集める企業体が増えて来たのは喜ばしいことである。競技の内容を見ると自由形、短距離は大学出によって争われて高校出の選手には寄りつく隙もない。中距離は大学出も若手に分がない、平泳、バタフライ、背泳は入り乱れての激戦で年々一般の部で入賞得点するには相当練習量をもたないと不可能になって来た。30才、40才以上の種目はいわば楽しみではあるが40才以上は年に似合ず結構ファイトを燃し、レースをやっている本人の楽しみは別として見る方がつらい。女子の方は第2回大会以来であるが年々盛んになり、最近連勝の東洋レーヨンに旭化成、白木屋等が迫り仲々面白いレースを見せてくれた。この大会が水泳年令を伸ばして働く者の大会というだけでなく各地に散らばった職場に働く水泳選手の同窓会的集いの役をしつゝ、水泳競技発展の一つの力となっているのは見逃せない。只増えていない高校選手を獲得に競争している大学間に各事業所が割込んで来たので、一層激しさを加え来たのは職に就く選手には結構なことである反面、憂慮すべきことも起きないことはいえない。選手の勧誘は大学も紳士的でありたいものだ。先にも述べた一府県内の事業所を単位とすることは八幡の様な場合はいゝが、集まり過ぎた選手の使い道には持てる物の悩みがあり、分散した事業所を一丸としてチームを結成したい企業体もあるだろう。僅かな補助金を理由に同じ会社の選手が一つになれない矛盾もある。一事業所に集まって来た選手には補助金や得点した時には得点を、その府県に与へなければ解決される問題でなからうか。一般の部の一種目は非常に沢山の参加者があり、これが一挙に7名とか9名になるのだから日本選手権大会や高校、大学の競技会と性質が異なるのだしA級、B級と選手を分けることなど考えられないだろうか。水泳選手にとって水泳のシーズンは地域の差こそあれ、約半年で競技会数もそう多くはない地方に在住して働く選手にとっては、中央なり他の地方に出る機会は少ないので競技

会に参加することをどんなに楽しみにしているが執行部も考へてやるべきで、勤労者大会とは別個に実業団選手権といった競技会の開催を選手の多数が企画している様だ。第33回の学生選手権大会は9月の6日より8日の3日間神宮プールで挙行された、本年は伝統の50mを廃止し、400mメドレリレーを採用するやら予選のタイムレースを採用したり、仲々派手に改正をした。非常にすっきりした様に感じられるが更に番組の編成には一工夫ある可きだ。こうした改正は長い歴史があっただけに種々と批判のある筈で、当事者は十分こういう意見は聞かれ旧きにとらはれず新奇に走らず、一步一步前進すべきである。

競技内容は日本選手権で活躍した古賀、長谷、石本、古川のベテランと新人山中の諸選手が相変わらずの強さを発揮し、少数精鋭の早大は数の日大に圧倒されて日大の優勝となった。これらの5選手の他は二宮が富田と共に好記録で背泳で活躍し、自由形中距離に明大の大谷が、バタフライで増永、開田等が石本を追って好記録を出した外は高校選手権大会に比べ変りばえのしない記録であった。日本水泳の最高峯であり、原動力の大学水泳がこれではまったくお寒いことであり、4月から始まったシーズンの5ヶ月に幾度競技会を行ったか、特に本年の如き8月中旬に日本選手権大会の行われた。7月には(水が温み時間的にも一番練習が出来、技術を磨き力を養える時期である)各大学はどんな練習をされたことであろうか伺い度いものである。

たゆまない努力で水に入り、記録に挑む激しい練習を如何に合理的に行い、積みあげ鍛え抜いて一年の最終目標の学生選手権に臨むか、こそ学生選手の生甲斐であろうに、ハード・トレーニングも休養も勿論必要であるがシーズン如何にして送るかを研究しもっと高い水準に多くの選手が到達してもらい度いものだ。幸い明年はアジア大会を契機として立派な室内プールが完成されるのだから、6月から7月にかけての梅雨期にはせめてシード校だけでもリーグ戦を毎週土、日曜の夜間にやったらレースに対する感覚もレース運びもうまくなり鍛えあげられて行くことであろうし固定したファンを獲得するのではないだろうか。沢山観衆が集まる様になれば6大学野球の様の一つの名物になれるのではないだろうか。

国民体育大会の水泳は9月22日から25日の4日間補助プール渡渉地や附属建物とまったく完備した市営プールで開催された。近代水泳の発生の地であり幾多名選手を輩出した浜松であるから力の入れ方も大変なものであるが、プールは完璧で役員も余程訓練したと見えて大したものであったが、この盛会も好事魔多しとか天候の方に恵れなかったのは惜まれた。この時期に水温の心配ない地方であるからと誰れもが気にしなかったためか、雨の中のレースにはせめてゆっくり入れられる浴槽は準備すべきであった競技内容は20℃の水温では十分な力を発揮することが出来ないのか低調であった。高校は各種目とも10組という大変な参加者で如何に参加側の各府県の関

係者が力を入れているかがうかがわれる。高校生はすでに夏季休暇も終了した時期であるし合同練習をやっているであろうし、開催時期については研究する必要もある。戦前の神宮大会は9月末であったが国体は性格も内容も全然異なるもので戦後のスポーツの興隆と共に、加盟団体の力の入れ方も他のスポーツと同様にお祭的なものから一歩前進したのでなかろうか。高校では勝つべきが勝った以外バタフライの那須が予選に落ちた位で記録的にも見るべきものがなかった。教員は青年と共にバタフライの種目が創設された。申込人員が6名に制約されているので選手の配分に苦労はあろうが、実際には選手を集めるために苦労をしているのではないかと考えられる。教育者に出るべく教育を受けている所でもっと水泳を盛んにしなければ、この種目の記録もとらない。青年についても参加する人の枠を事業所の従業員とか大学出を除いた、農村漁村で家業に従事しながら、好きで水泳をやっている人々が対象で所謂昔の青年団員でないので人不足は否めない。高校出や中学出で有望視されていた人々の顔も時々見受けるがこの年代に於ける仕事をしながら泳ぐことは如何に至難なことであるか、情熱と成績とは一致しない例を見せられる。実業団の方は勤労者大会の参加者を各府県がよりすぐっての参加であるので仲々の激戦であるが秋風と共に練習量の不足が目立ち、ベテランには年令差も取除かれて仲々つらいことである。女子は高校勢と勤労者。大学生の争いで、日本選手権の再現であるが層が広がりつゝあるといえ特定地域の府県が上位を占めるので、5つの種別の総合得点で優勝を定める現行制度にはっきりとした矛盾が表われている。優勝した府県の偉業は讃えるべきであるが、5つの種別をそれぞれ総合得点で順位をつけ点数を与えて総合の成績をきめることが望ましい。郷土対抗リレーの存在には意見を徴する必要がある時期ではないか。飛込、水球に就いても天皇杯得点が存在する限り、府県の成績が発表される限り、競泳と同様得点の対象にすべきである。各府県が毎年団体に参加するため各種団体共参加人員の数の獲得割当に問題があり、水泳だけが別天地ではあり得ない状態に立至っている、国体に関する限りは他団体と協調しながら守るべき線は守らなければならないので、特に競技要項については研究を十分にすることを執行部をお願いをしたい。5つの大会を振り返りオリンピックの翌年であり国内で水入らずにじっくり練習し、水泳日本の力を養う筈であった当初の執行部の考えと異なり山中とか石本とか極めて僅かな人の活躍に与えられ、面目は維持したであろうけれど全般的に桃源の夢をむさぼったという状態ではなかったか。泳ぎは勿論であるがターニングでもスタートでも如何にしたら合理的に記録短縮に役立つか研究をつまめるべきである。最近の頃みに向上した青少年の体格は常に口にされながら水泳選手の体格は、決して向上していないことは憂慮すべきことで層を拡大することに関係者は努力すべきであり、選手には練習に励む様刺戟を与えなければいけない機会を求めて海外へ出す、海外から招ぶことをしなければならないと思う。

『今年 の 飛 込 界』

岩 佐 道 雄

早慶戦に始まり国体をフィナーレとして、遂に今年のシーズンも終りを告げた。今その記録を整理し乍ら我が飛込界の現況、即ち本年度の成果に就いて考えて見たいと思う。

先づ初めに、本年はFINA飛込規則の改正に伴い飛板飛込規定飛種目の変更や競技方法の改訂等が行われて選手諸君にとっては非常に骨の折れる年であった事と思われる。然し乍ら各選手並びにコーチ諸賢は良く之をマスターし、むしろ予想以上の成績を上げ得た事は誠に喜びに堪えない次第である。

即ちこれは明年5月開催されるアジア競技大会に具えて、当委員会としては、飛込は設備の関係で大会直前に最終予選会を開き選手を決定する事が不可能であろうとの見解のもとに9月14日15日の両日に予選会を開催して候補選手の決定を行い、爾後それら選手の強化を主眼とする方針を建てた、これにより本年度の競技の焦点は一応この期に絞られる結果となったのであるが、勿論この競技会に出場するためには、日本選手権、インターハイ、インターカレッジ等の競技会に於て優秀なる成績をおさめねばならぬという規定のもとにこれを行ったため、各選手が非常なハード、トレーニングを余儀なくされた結果であろうと思われる。従来オリンピックの翌年は選手のレベルが下るとよくいわれているが我が飛込界に於ては幸運にも全く逆の結果となって現れたのである。

今ここにその実例を掲げると先づ第一に特筆される事は、日本選手権大会に於て、女子高飛込に渡辺、津谷の両選手が共に我国に於いては前人未踏であった80点台をマークし、当然世界のA級にランクさるべき立派な技を示して呉れた事である。殊に渡辺選手は恵まれた体力と他の追従を許さぬ練習量によって昨年度第4位より一躍この栄冠を勝ち得たものであり心より拍手を送りたい。

亦男子高飛込に於いてもベテラン馬場、馬淵の両選手が最後の1種目まで大接戦を演じ、共に139点台という昨年度のそれを遙かに凌駕した成績を残して呉れたので

ある。

飛板飛込に於ても前述の如く規定飛種目変更による難易率平均値の低下にもかかわらず男子では馬淵の138点台、馬場の135点台、女子では津谷の120点台、渡辺の118点台と皆上昇成績を示した。殊に馬淵選手の飛板に就いては、昨年度は馬場選手との間に相当の開きがあった様に見受けられたが、オリンピック参加以来の精進が実を結んで遂に宿敵馬場選手を押え得た事は彼に取って一段の進歩といえよう。

この他男子の清水、坂本、女子の角倉、宮本等の各選手も夫々の技術に確実性が出来、個々の持ち味が生されて来た様に思われる。これらの人々は今後共各自の個性を十分に生かし得る種目を大いに研究すべきである。

次に日本高校大会に於て特に感じた事は、個々の技術に就ては未だしの感があったがこれは設備や学業等の制約があるので現状に於ては無理もない事と思われる。然し出場選手の増加した事に関しては誠に驚くべきものでプログラム編成等で役員達は嬉しい悲鳴を上げていた程である。これは地方の各加盟団体役員及び飛込指導者諸兄の御努力の賜物と大いに感謝している次第で、今後共益々中学、高校生の若い選手等の育成に御尽力下さる様切望する次第である。

亦日本学生選手権大会に就いては、中島兄弟、山野、成田、伊藤等の選手を有する日本大学の圧倒的な勝利は誰もが予想した如くであったが、然し破れたりとはいえず、高飛込に於ける岩橋、山田の早大勢の健斗は目覚しいものであった。亦日大中島(兄)の昨年度に引続いての両種目連続優勝は誠に賞讃に価するものであるが技術的には何か未だ物足りない感があったのは筆者のひが目であろうか。勿論前宙返り1回半2回捻とか後宙返り1回半1回半捻等の他の選手が未だあまり手掛けない高度の種目を一応こなしていた事は日本の飛込将来のためには非常に有意義な事で他の選手達ももっと積極的にこれらの種目に取組むべきであると思うが、ただこれらにのみとらはずそれ以前の基礎的訓練即ち助走、踏切、入水技術等の研究を忘れぬ様老婆心として一言申添えたい。

次に選手諸君にとって本年度の最も主要競技と目されるアジア大会選手選考会はインターカレッジの翌週に、選抜された男子15名、女子7名の選手等によって行われたが、男子では、馬場、馬淵両選手が夫々自己のペースで競技を進め他を引離し、殊に馬場選手は高飛込に於て非常に安定した然もシャープな飛込を行い恐らく自己の最高であろうと思われる143.37得点を記録した。これはかつてベルリンオリンピック大会に於いて活躍された柴原、小柳、両先輩の線にまで到達し得たものと考えられ男子高飛込のオリンピック入賞の可能性を裏書するものであると確信する。

亦飛板3位の坂本、高飛込3位の山野両選手、共に善戦し、坂本は旨みのある然も腰の安定した飛込でベテラン振りを発揮、山野はシーズン後半に急速の進歩を示し、未だ荒削りではあるか非凡な体力を利用した豪快な飛込を行って、共に候補選手に選ばれた事は誠に見事な出来ばえであった。

女子では渡辺が飛板に120点台で優勝、津谷選手が高飛込に76点台で優勝したが、この2人を比較して見ると渡辺は高飛込に於ては安定した力強さを持っているが飛板に於ては未だ鋭さに欠けており、助走、踏切等に将来の研究課題が残されている様に思われた。津谷はオリンピック参加以来スケールが大きくなり一段とシャープになって、線の美しさでは断然他を圧しているが未だ踏切、入水等に粗雑な点が見受けられたのは如何した事であろうか。

亦飛板第2位の角倉選手のスプリントは女子には稀に見る優れたもので将来大いに希望が持てるが、何故もっと高飛込をも行おうとしないのか。これによって会得する空中感覚や水の抵抗に対する力や感が飛板技術に加われればもっと延びる様に思われて誠に惜しい。

宮本選手は動作の確実さに於いては女子選手中第一であるが身体の延びが以上3選手等に比して劣る事が難点といえるであろう。

以上男子、女子各々4名が候補選手として選ばれた訳であるが、明度年の大会にはローマ大会の前哨戦とも考えて大なる活躍を期待する次第である。

次に国体及び全国勤労者大会に関しては、地元主管団体の役員諸氏の飛込に対する深い御理解と御尽力による万全の設備と運営に加えて、例年に無い多数の参加選手を迎え盛會裡に行われた事は高校選手の増加と相まって、我が国飛込発展のために誠に欣快とする処である。

殊に国体に於ては16都道府県参加の願いも近い将来に於て必ずや実現の可能性が出来たものと思われるので、地方関係者の方々の倍旧の御援助をお願いしたい。

以上述べた如く我が飛込界の前途は非常に明るい、が然し世界各国の情勢から判断して決して楽観は許されない。

ローマ大会への道は未だ遠く且極めて険しいものであるという事を充分心に銘記して選手諸君の尙一層の奮起を要望する次第である。

(筆者は本連盟常務理事・飛込委員長代理)

— アジア大会水泳準備状況 — 小 出 靖 彦

明年5月末東京に於て行われるアジア競技大会は、日本体育協会並びに各種目別団体で着々準備を進めているが水泳関係の概略を説明すると次の通りである。

- 期 日 昭和33年5月28日～31日
- 場 所 東京 新設室内プール
(プールは工事進行中で詳細は本号26頁参照)
- 種 目 (イ) 飛 泳

男子	自由形	100m	200m	400m	1500m
	背 泳	100m	200m		
	平 泳	100m	200m		
	バタフライ	100m	200m		
	リレー	800m			
	メドレー・リレー	400m			
女子	自由形	100m	200m	400	
	背 泳	100m			
	平 泳	100m	200m		
	バタフライ	100m			
	リレー	400m			
	メドレー・リレー	400m			

備考 前回迄はオリンピック種目のみであったが今回は上記の通り改正された。尙フィリッピンより女子200m背泳を加えてほしいとの要望があったが決定していない。

(ロ) 飛込 男子 飛板飛込 高飛込

女子 飛板飛込 高飛込

(ハ) 水球

○代表選手 競泳選手は5月10、11日新設室内プールに於て予選会を行い決定する。選手の予定数は競泳38名、飛込8名、水球11名である。

日本水泳連盟では代表候補選手を選出し(本号16頁を参照)次の通り強化練習を行う予定である。

競泳、飛込 1月4日～13日迄東大室内プールに於て競泳男子高校生21名、女子24名、飛込男子4名、女子4名、役員7名合宿練習を行う。更に4月末競泳飛込とも野沢温泉プールで全員合宿練習を行う予定である。なお、東大プールは1月初めより5月中旬頃まで、九段高校プールは4月一杯プールを温めて練習ができるようにする予定である。

水 球 1月～3月YMCAで候補選手全員練習を行い更に4月一杯東大プールで練習し5月5日より12日迄、同じく東大プールで合宿練習の予定である。

○代表役員 役員はアジア大会組織委員会の方のわくがあるので人員の決定され次第日本水泳連盟でその氏名を決定発表の予定である。

○他の予定 水泳代表選手の決定発表は5月11日で日本選手団、結団式は5月12日、選手村入村は5月14日なお大会終了後6月2日解団式を行い離村の予定である。
(筆者は本連盟会計理事)

今年のシンクロ・スイミング

串 田 夫 正

本年度特筆すべきは、第1回の全日本選手権シンクロ競技会を開いたことと、日米交歓シンクロ競技会を明治神宮プールにおいて7,000の観衆を集め行ったことである。

昨年度全日本競技会を行うことは行ったが、競技規則も仮規則によったものであったし、全日本選手権の名目を使用し得なかったが、本年度は日本水連公認のシンクロ競技規則が制定され、その公認競技規則による第1回の日本選手権競技会が開かれた訳である。参加チームは4（東京ウォーター・スプライト、浜寺水練、浜名湾游泳協会、二階堂クラブ）。

参加者は32名、種目別ソロ12名、デュエット7組、

チーム4組）であった。

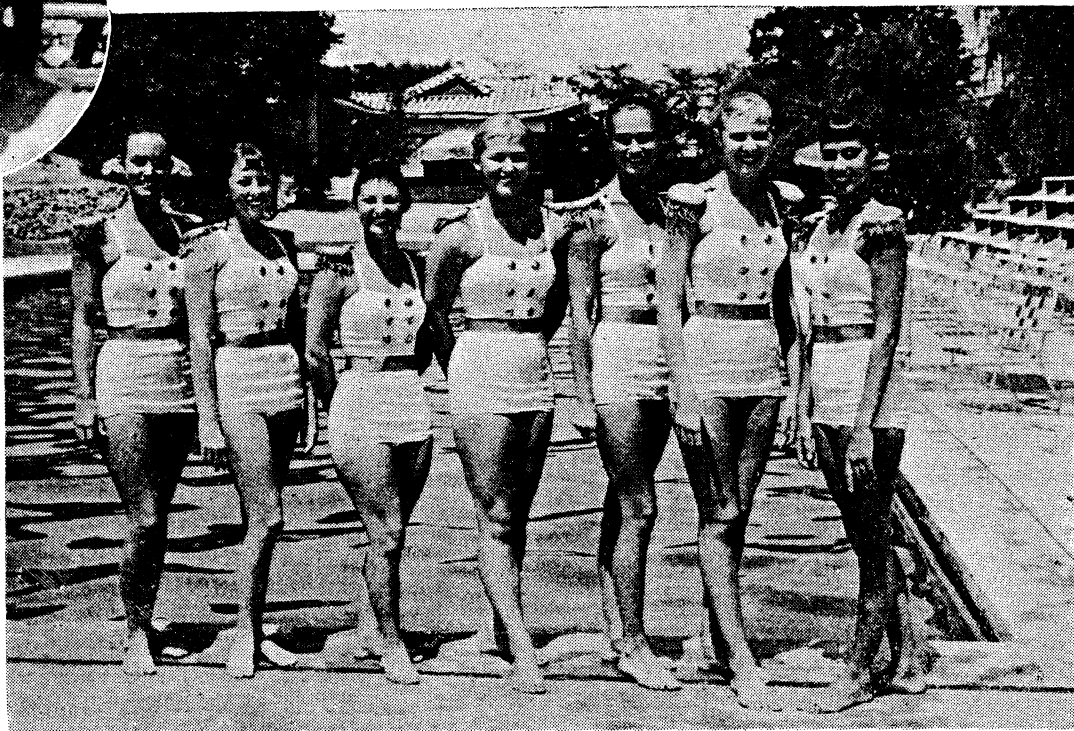
結果として種目別に見るべきものは、ソロの橋本が規定スタントに正確さを加えた上に創作スタレツを組み入る等技術的に非常に進歩を示したことである。しかし主体として、まとまりを欠き表現力において今一息のところ、デュエットの渡辺、和田組、松沢、西沢組の進境は本年度における大きな収穫であり将来に希望がもてる。これは全般的にいえることであるが基礎技術の今一層の正確さと、安定性が欲しい。

総体的に技術的には順調な進歩といえる。結果はウォーター・スプライトが各種目とも上位をしめたが、これは他チームより一年先んじて練習をはじめた優位からくる基礎技術のレベルの相違が、そのまま結果として現れ



監督

ジョイ・クッシュ
ユマン、選手(左
から) シャロン
・デーオン、リ
ンダ・ライデイ
ング、ナンシー
・ミレット、リ
ン・クリステイ
ック、フランシ
ス・スワード
スーザン・ペア
ー、ロザリンド
・カルカテラ



日米交歓シンクロ競技会に出場の米国チーム



ソロ1位橋本紀子“湖の朝”



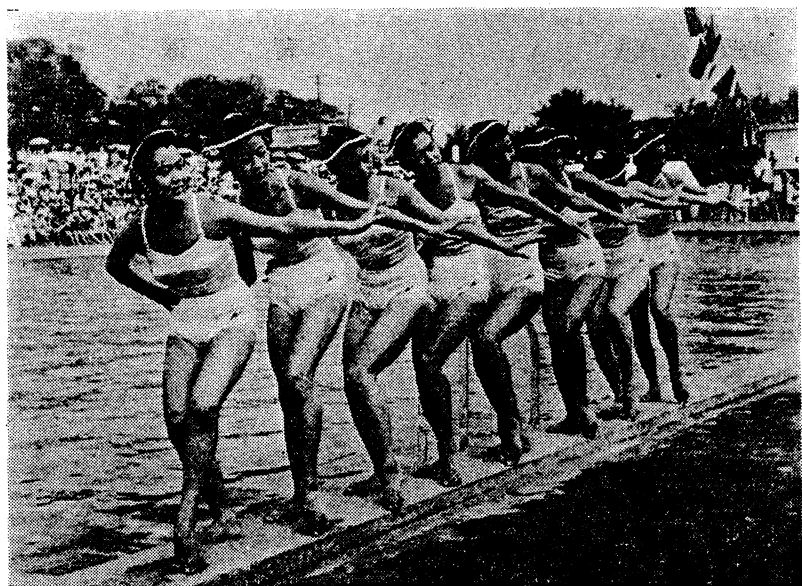
デュエット1位和田民子，渡辺久子“パイはいかが”

たといってよい。このことは、日本対抗においてもそのままいえることで、美的表現における着想等においては何等遜色ないように思うが、いかんせん基礎技術の未熟はおおむねもなかった。その歴史の相違とはいえ、しかし追い付けないものでもないと確信している。米国は、シンクロをスポーツに取り入れてから既に11年、その前段階を計算に入れれば20年近い歴史を持ち、今日の発展を見たことに比較すれば、日本の近歩振りは驚異にあたいするものではないかと思う。日本人の物真似のうまいのには感心するといった人がいる。しかし物真似にも創作能力を必要とする。われわれに創作能力が無い訳ではない。近い将来において米国の域に達し得られるものと思っている。

シンクロとしては、本年度あたり研究段階から普及段階にうつったように思う、国際的に女子の競技においては芸術的美的表現が要求される傾向にあるとき、シンクロは、その要求に応えるものとして健全な発展を心から願うものであるが、そのためには、選手の精進は勿論、周囲の深い理解と協力がなければかなわないことである。

国際的には、メルボルン・オリンピックの際のF I N A総会においてシンクロ委員

会が認められ、国際ルールの制定準備が進められることになった。また、本年8月のF I N Aの理事会において国際シンクロ委員(現在9名)が証認されるとともにローマの大会のときのF I N A総会において国際ルールを審議決定することが決議された。したがって、それまでに国際ルール案を各国委員の間で意見を交換しまとめることになってる。(筆者は本連盟常務理事・シンクロ委員長)



チーム1位 東京ウォーターズプライトチーム“お江戸日本橋”
左から三浦，橋本，西沢，牧田，和田，立石，渡辺，松沢

アジア大会候補選手

競泳男子の部

◎自由形

古賀	賀野	学	早	大
東野	賢	二	中	大
石原	勝	紀	日	大
林	利	博	〃	〃
大谷	康	夫	明	大
福井	庸	彦	浜	田
中見	勝	紀	佐	伯
十河	英	一	修	道
北原	一	昌	天	王
山畑	昌	毅	伝	習
北山	井	宏	早	日
石丸	山	敏	日	大
古藤	木	輝	佐	伯
梅越	本	達	白	杵
内庄	智	利	姫	路
	山	静	五	条
	司	敏	今	治
			浜	松
			安	房

◎背泳

長谷	景	治	早	大
富田	一	雄	日	大
二宮	英	雄	慶	大
渡辺	一	夫	日	大
林高	芳	人	浮	羽
	忠	之	岩	国

◎平泳

古川	勝	日	大
豊池	守	立	大
増田	勲	日	大
中村	彦	宇	和
宮本	英	山	鹿
和氣	統	瀬	戸

◎バタフライ

石本	隆	日	大
増永	文	昭	〃
開田	幸	一	中
那須	純	哉	出
武市	啓	志	高
吉無	田	春	九

競泳女子の部

◎自由形

佐藤	喜	子	天	理	大
神野	節	子	淑	德	S
島田	順	子	東	洋	レ
小牧	幸	子	旭	化	成
大中	沖	代	伊	都	高
和野	田	子	成	女	高
大宮	原	子	五	条	高
芝岡	坂	子	東	洋	レ
中坂	野	子	輪	島	高
江野	昭	子	五	条	山
			椏	山	中
			帝	塚	山

◎背泳

岡本	節	子	五	条	高
村瀬	賀	子	天	理	大
雑賀	佳	子	天	理	高
田中	聰	子	嘉	島	中

◎平泳

高松	好	子	天	理	大
小田	切	子	旭	化	成
西田	千	子	土	佐	女
田中	清	恵	九	度	山

◎バタフライ

宮部	シ	ズ	天	理	大
片岡	幸	子	五	条	高

松枝喜代美 下田北高
寺垣内達代 帝塚山大

飛込競技男子の部

馬場	豊	天	御	津	建
馬淵	良	長	野	電	鉄
山野	外	夫	日	大	
坂本	章	八	ミ	ツ	ワ

飛込競技女子の部

渡辺	久	美	子	日	体
津谷	鹿	乃	子	松	蔭
角倉	佐	久	子	日	本
宮本	ま	さ	み	天	理

水球競技

加藤	峰	男	早	大	出
佐藤	賢	助	日	大	大
河崎	幹	夫	中	大	大
滝野	具	伸	日	大	大
沢村	正	一	日	大	大
小野	桂	三	日	大	大
飯沼	寛	治	中	大	大
浅々	木	智	慶	大	大
佐遊	八	夜	中	大	大
荒野	川	郎	慶	大	大
野中	川	博	中	大	大
佐田	藤	平	慶	大	大
田高	久	尚	日	大	大
宮高	木	徹	日	大	大
田佐	村	毅	日	大	大
曾橋	本	信	早	大	大
宮橋	本	利	中	大	大
伊藤	藤	和	早	大	大

第5回水泳教室

赤 檜 卓 爾

場 所 期 間

				コーチ 助手
西部	7月23日— 7月27日	男子 久留米石橋文化 センタープール	赤檜卓爾 7名	
		女子 瀬高プール		
東部	7月28日— 8月1日	天理プール	芦田拓郎 14名	

参 加 人 員

西部	男子 38名	女子 30名		
	(自)(背)(平)(バ)(引)	(自)(背)(平)(バ)(引)		
徳島	3 1 1	1 2 1 2 2 1		
香川	2 1 1	1 2 1 1 1 1		
山口	1			
福岡	2 1	1 1 1 4 1		
大分	4 2 2 2 1			
熊本	3 2 2	1 3 3 1 2		
鹿児島	1 1 1 1 1	3 1 1 1		
沖縄	1 1 1 1			
東部	男子 54名	女子 42名		
	(自)(背)(平)(バ)(引)	(自)(背)(平)(バ)(引)		
岩手	1	1 1		
群馬	1			
千葉	2 1 1 2 2			
神奈川	2 1	1		
山梨	2			
愛知	3 1 1 1 2	5 6 4 4 3		
大阪	2 1 1 1 1	2 1 1 1		
奈良	2 2 2 1 2	4 1 2 1		
鳥取		1 1		
島根	1	1 1		
山口		1		
高知	8 3 6 2 2	2 1 1 1 1		
		男 女		
種目別	自由型	40	27	
	背泳	18	17	
	平泳	21	17	
	バタフライ	13	11	
	引 卒 者	31		

練 習 日 課

東部は比較的練習条件に恵まれたが、西部は九州全土を襲った折からの豪雨のため晴天がわずかに1日であり全国的な流寒のため参加選手の練習不足が目立ち、その上人員が多くプールの効率からしても基本的な練習に主眼をおかざるを得なく量を泳ぐ事に専念す、特に泳法の悪い者のみ解説し矯正した。

所 見

今年度より水泳教室の優秀選手をジュニア大会(日本選手権と同期間中)に推薦参加さし、第1回目としてはまづまづの成果を得たが、更に理想的な強化方法としてはブロック大会(水泳教室を約9ブロック程度に区分し最終日に記録会を行う)を中心にその中から精鋭を集め全国大会(ジュニア指導講習会)迄早急に実現化する様計画するのが一番必要な早道だと考える。今年の教室を省りみ幸い1名の事故者もなかった事は地元水連の方々、助手の御援助の賜と誌上より感謝致します。ここに1週間を顧りみ今後の水泳教室の何等かの参考資料になればと思ひ所見を述べます。

1. 現在の実技日数は集合、解散をのぞき丸3日間であるが最低1週間にすべきである。
2. 年1回の教室だけにとどめず、これら年少中学生の同メンバーにて冬期合宿もやり段々精鋭化すべきである。
3. 1県でも不参加県のなき様、又教室の助手に実際指導している先生方の加わる事がより適切である。
4. 学校によっては教室の練習量が少ない理由にて参加しない者あり、参加人員について再考する必要がある(ブロックに区分する必要性)
5. 現地指導者の教育指導こそ水連の強化策と考えます。(引率者先生方との懇談会は非常に有意義であった。)

最後に今年参加の先生、選手に皆と一緒に練習出来ない者は試合に負けるより何より恥である事。教室の練習量の3倍が中学生の練習量である事を強く御願ひし今後の精進を望みます。(筆者は本連盟理事・競泳委員)

第3回全日本中学校通信競技大会

を 顧 み て

栗 村 中 丸

第3回全日本中学校通信競技大会は、全国的な好天気
に恵まれて、8月25日、43都道府県（不参加県は宮城、
新潟、山形）において一斉に行われた。

周知のように本年度から日本選手権大会にジュニア
部を新設する等次代を背負うべき中学生諸君に期待する
ところ大なるものがあるが、卒直にいて本年は特にオリ
ンピックの翌年ではあり、かつ日程の問題や中体連と
の共催問題等問題の多かった年だけに大会運営上多少気
づかわれた点があった。

しかし3府県の不参加はあったにせよ成功裡に無事終
了し得たことは関係者の一員として喜びに堪えない次第
である。本年は記録的には全般的に確かに幾分低調感を
免れなかったが、しかし男子では日本中学新が2、大会
新4、女子では日本中学新3、大会新4、大会対1を出
し、特に女子の活躍は男子をしのぐものがあり、記録的
にも著しい飛躍のあとが見られたことは甚だ心強いもの
があった。

男子では昨年に引続き中京（愛知）が113点で優勝し
これで同校は、第1回以来3年連続の違業をなしとげた
が、各種目に洩れなく上位入賞しその層の厚さは他校に
その例を見ず、僅差で2位となつた高知中（高知）と共
にその活躍は絶賛に値するものがある。また、上位入賞
校は毎回大体同じ顔ぶれであるが、昨年13位だった大入
島（大分）と20位以下だった五条（奈良）が共に夫々6、
7位に躍進したこと、および常盤（山口）が初めて10位
に喰込んだことは賞されてよく今後の活躍を期待してや
まない。

記録的には新記録続出というところまではいかなか
ったが、200mバタで渡辺（和田—千葉）が初めて40秒の
関門を割り、水野（小牧—愛知）と共に日本中学最高記
録を出したことは大いに賞される。

また、200m平における小牧（宮之城—鹿兒島）の
51.0や大会新を出した400メドレー等はルール改正後の
新泳法によるものだけに昨年に比較しても好記録という
べきであろう。男子は昨年がよかっただけに比較される
わけであるが、3ケ年課程ではどうしても周期的な断層
ができることはいなめない事実であって、このことは昨
年上位を占めた選手の大半が姿を消し、代って本年上位

を占めた選手の殆どが新人であることからもうかがえ
る。このことから、中学生諸君の育成強化は幾多の難
かしい問題があることを示唆している。もとより競技会
である以上記録の向上は望ましいことではあるが、単な
る記録的期待を追うことにとどまらず、将来への基礎を
つくり上げるという配慮も当然必要ではなからうか。

女子の学校別では、2年連続優勝の九度山（和歌山）が
30点余の大差で破り157点をもって椋山（愛知）が初の
優勝をとげたことは賞される。また、土佐女（高知）が
昨年の18位から一躍4位（91点）に、10位の嘉島（熊
本）が3位（96点）に進出したことは、瀬高（福岡）が
本年初めて9位（59.5点）に入賞したことともに特に将
来に期待されるものがあり特筆に値する。

個人記録としては、男子に比し非常に良く、特に400m
自で5:45.4の日本中学新を出し2年連続優勝の江坂（椋
山—愛知）、および5:53.0で2位の虎野（帝塚山—大阪）
は共に6分の関門を割り昨年の自己の記録を夫々大幅に
短縮したことは将来に明るい希望を持たせるものであ
り、その活躍は大いに期待させるものがある。また、100
m背で1:24.4の日本中学新を出して1位の田中（嘉島—
熊本）も昨年自己の出した記録を8秒余も短縮したこと
は、100バタで2年連続1位の木村（九度山—和歌山）
の活躍とともにまことに賞賛に値する。

男女子を通じ全般的には僅かではあるが、漸次向上の
あとが見られ特に東北、裏日本等比較的気候に恵まれな
い地方の入選者も除々に増えてきたことは喜ばしい現象
であるが、来年度こそこれらの地区からも是非共入賞府
県を出して貰いたいものである。

次に大会運営上の懸案問題として中体連との共催関係
についてその経緯を簡単に記しておきたい。この問題は
一昨年の第1回大会開催以来の懸案であって、当時から
水連本部としても中体連との共催の線に添うべく前会長
以下努力してきたところであるが、いまだ中体連の各地方
組織が確立されておらない府県もあり、更には水泳部
門の組織の有無も不明なため、一応保留されてきたもの
であり、本年度は来年度からの共催を含みとして従来通
りの要領により実施することとし1月の代議員会で承認
されたことは周知のとおりである。しかるに、本年6月

26日の全国中体連理事会に水連からも関係者が出席したところ、各府県代表理事から“本年度の通信競技大会は何故中体連との共催にしないか、これは約束と違う、一切の協力をしない”と強硬な反論が出た。これに対し当方から詳細にわたり従来までの経緯を説明し了解に努めたのであるが、了承を得るに至らず、遂に理事会決議として(1)中体連との共催実施(2)ジュニア部新設の中止(3)中体連との事前協議等に関する要望書が水連に送付されるに至った次第である。

そこで水連としては、直ちに常務理事会において協議すると共に中体連事務局との了解工作に努めた結果、要望書の内容中一部改訂を願うと共に水連より中体連当局に対し、本年度の通信競技は各地区の実情に応じ共催が可能な府県はできるだけ共催して実施するよう各加盟団体に通知する旨回答を發した次第である。これは一には、文部省通達によって見られる制約もあり、他のスポーツにも影響することでもあるので困難な問題をはらんでいるのであるが、具体的には、中体連当局の主張を要約すればジュニア部設置の問題を含め、中学生は義務教育中であり種々の制約があるため個人としての出場であっても教師が責任を負うべきであるから共同主催は絶対必要であるということである。その他中体連を無視したという感情論も大きく支配していたであろうことはいなめないところであろうが、我々としては何も共催しないということではなく地方組織未確立を理由に本年度共催を見送りとしたのであって、来年度からは是非共催の実をあげ本大会の運営を瑕なく終らせたいものである。

次に大会運営その他について希望なり反省を若干述べてみたい。

1. 男子の場合記録が低調気味だったが、これは前に述べたような事情にもよろうが、ローマ大会を控えた現在一層の強化策を講ずる要がある。
2. 日程の問題であるが、本年は8月中の他の予定行事を種々勘案検討した結果、25日と決定したのであるが、インターハイ当日と重なったため東京都を初め他の府県でも不都合のところもあったようであるので、来年度は慎重を期したい。
3. 中学選手権大会等と重複して開催した府県は競技の終了時刻が遅れざるをえないが、通信競技の性質上要綱通り3時30分までには終了して貰いたい。1府県でも遅れるとそれだけ本部の集計が不可能となる。
4. 本年は朝日新聞側の通信も非常にスムーズに参り、加へて九州管内と関西管内を夫々福岡水連と関西支部でまとめたので集計が早く終った。

5. 25mプールを使用した府県が6県あったが、昨年も宍道氏が指摘されたようにできるだけ50mプールに統一して実施致したいと思う。1秒加算の問題はやむを得ぬ措置としても一考を要する問題である。

6. 昨年同様3府県の不参加があったが種々な理由があるにせよ万難を排して参加願いたいと思う。

7. 次に本通信競技大会の要綱第8項の2によれば、大会成績はプログラムを添えて9月5日までに本部に報告することになっているにも拘わらず、大半が11月1杯(報告のないところもある)位まで遷延され、事務処理に非常に支障を来すことが多い。

これは、大会終了後10日間の余裕しかないせいもあるろうが、本部では早急に各加盟団体にその最終的集計を通報する関係と、「国体」の開会式当日入賞校、入賞府県を表彰することになっているので、早急に最後の集計を終り、決定的なものを整備する要があるからである。

また、僅かであるが大会前の申込書を提出されない加盟団体もあった。

御承知のように、大会当日は、本部の担当者は12時頃から朝日新聞本社へつめて、各地区からの通信をまとめるのであるが、通信自体の時間差もあり全国的にわたるので、全部の集計が終了するのが夜の10時過になり、また新聞社側としても翌日の朝刊に登載する必要上メ切時間の制約があって、本部の少数の人員では取りまとめと集計事務は予期以上に困難が伴うものである。

また、新聞社の通信事務も早急になされるため、誤記その他多少の誤りもあり毎年この点の調整に苦しんだようである。従って各地区の当時の速報は、「申込書」と照合し、誤りのないようにしないと本部では時間的な関係もありそのまま報告を集計することになる。本年も一部府県で一人2種目出場した者が二三あったため、最終的には得点と入賞府県に多少の変動があったことは結果的に遺憾であった。もち論、本部の取りまとめ方法にも遺憾の点があったようであるので、今後はこのようなことのないよう充分留意したいと思うが、要は成績報告の早急提出と通信事務の万全を期し得られるよう今後とも御一考を煩わしたい次第である。

本競技会も回を重ねること3回に及び前回までに活躍した幾多の優秀選手諸君は今や高校の第一線選手として活躍しており、近い将来ひいてはローマ大会の日本のホープとして活躍が期待されることを思えば、この競技会こそ正しく日本水泳界の登竜門たるべきものでありその健全な発展を切望してやまない次第である。

最後に後援して戴いた朝日新聞社ならびに加盟団体の関係各位に感謝の意を表したい。

(筆者は本連盟常務理事・記録委員長)

ジュニア水泳指導会実施のあらまし

水泳は特殊な競技で、少年時代から指導と猛練習と大競技会に出場させて刺戟を与えれば、中学生でも世界第一線の選手になり得る。又それでなければ世界的な大選手とはなり得ないという結論に達しており濠州、米国、ソ連等は少年を組織的に訓練している。

日本でも何とかして中学生に指導と刺戟を与え、水泳日本の再建を計りたいと水連田畑前会長が文部省と種々交渉し、それが或る程度実を結んで全国中体連の協力を得て、今回のジュニア水泳指導会を開催することになったのである。

実施要項

1. 主催 日本水泳連盟、全国中学校体育連盟
2. 期 日 昭和32年8月15、16、17、18日
3. 場 所 東京 明治神宮プール
京華中学校プール

4. 参加資格者 男女中学生であって世界的水準に達している者及びその見込みのある者。

5. 参加者選抜方法 7月末行われる水泳教室に参加した者（参加しない者であっても特に優秀と認めて加盟団体の推薦した者を含む）の中から、現在迄の記録及びその将来性を考慮し日本水泳連盟にて参加候補者を選抜し文部省の審議機関の審査を経て決定し参加させる。

①水泳教室に参加した者については、水連指導員から水連本部に報告する。

②水泳教室に参加しない者については、加盟団体より8月1日迄に必着にて本年の記録を附して水連本部宛推薦する。

③上記①②報告に基いて水連本部では8月2中に参加候補者を決定、本人の学校宛電報連絡する。

④連絡を受けた候補者は8月16日迄に必着するよう（遅れた場合は審査の対象にならない）審査資料として、下記書類を該府県教育委員会を通じて、

東京都千代田区霞ヶ関

文部省初等中等教育局長宛

（封筒の表は文部省初等中等教育局体育係）送附すること。

1. 学業成績表
2. 健康診断書
3. 校長の推薦書
4. 父母の承諾書
5. 競技成績（これまで参加した主なる競技会とその時の記録）

⑤文部省の審議会に於て最終決定を見た参加者に対しては水連本部より8月10日迄に学校宛連絡する。

⑥決定した参加者は附添者と共に8月15日正午迄に

東京都文京区森川町117

大栄館（東大正門前）に集合すること。

6. 指導要領

①参加生徒及び附添は原則として水連の定める宿舎に合宿する。

②参加生徒の練習及び技術の指導には日本水泳連盟競泳委員会が当る。指導期間後半において日本選手権水上競技大会の競技中を利用して記録会を行う。

③附添者については指導方法其他の合同研究を行う。競泳委員会が担当する。

④合宿中の生徒の生活指導は全国中体連が担当する。

⑤健康管理については専門医を配置する。を日本水泳連盟が負担する。宿泊費は参加側

以上のような要項で次の通り参加者を得た。

男子

自由形 (12)

菅原 勝広	椿	葉室 正考	隈 府
高須 幸夫	中 京	鈴木 利明	竜 洋
鈴木 秀司	竜 洋	藤村 誠一	高 知
岡村 文博	高 知	山口 敏之	七 浦
浅野 与一	中 京	藤原 秀男	掛川西
小川 啓	高 倉	藤川 芳雄	豊田前

背 泳 (5)

平島 清也	西 岬	畠中 武	高 知
伊藤 圭祐	中 京	柿本 伸	鶴 橋
大隅 潔	竜 洋		

平 泳 (8)

庄司 孝夫	和 田	西永 清明	豊 浜
平野 国雄	舞 坂	上乘 幸康	雄 踏
松本健次郎	大入島	坪田 充功	小金井一
今井 兼義	桜 山	長谷川良機	御 園

バタフライ (7)

渡辺 春男	和 田	水野 隆晴	小 牧
井上 敦雄	日大豊山	白井 金次	和 田
竹村 幸生	高 知	佐藤 邦男	白河二
平井 昇	日大一		

女子

自由形 (6)

江坂 君子	梶 山	水野日出代	淑 徳
粟飯原 照	土佐女	宮崎孔美子	信 愛
虎野 昭子	帝塚山	浜岡 育美	鷺 浦

背 泳 (6)

田中 聰子	嘉 島	大岩 香苗	梶 山
社本 良江	淑 徳	松永 凉子	嘉 島
末村 房子	館山二	瀬川 静子	湯 本

平 泳 (6)

大谷 君子	船 岡	鎌田 寛子	国泰寺
飯村 宏子	松 蔭	浜中 翠	梶 山
辻 成美	信 愛	岩田 靖子	成 女

バタフライ (7)

松岡 明子	竹 原	森下多恵子	鳴門一
佐藤 僚子	大島一	多田 米子	五 条
富田 悦子	梶 山	服部千賀子	梶 山
中村 靖子	青 山		

合 計 57名

中共遠征記

吉 本 弘

去る6月23日、羽田を出発して香港經由にて中共に入った。6月30日北京大会を皮切りに7月5日天津、10日上海、15日広州と4箇所て夫々競技を行った。

編成チームと成績は次の通りであった。

団長 安井俊雄、監督 吉本 弘、コーチ 谷 詔、
選手(主) 横地森太郎、長谷景治、古賀学、太田勝、
上本正義、坂井逸治、山中毅 以上10名

北京大会(中共選抜チーム)

100m(自) ①古賀57秒8 ②谷58秒6 ③林錦珠58秒8 ④横地1分0秒5

400m(自) ①山中4分40秒0 ②李喜辰4分56秒4 ③上本5分0秒8

100m(平) ①威烈玄1分13秒0 ②穆祥雄1分13秒7 ③曾英逸1分16秒2 ④太田1分18秒4

200m(平) ①穆祥雄2分43秒8 ②威烈玄2分44秒0 ③章焜孫2分50秒8 ④太田2分56秒6

100m(蝶) ①坂井1分04秒7 ②王強立1分08秒3 ③王輝炎1分12秒0

100m(背) ①長谷1分07秒2 ②薰譚勝1分12秒0 ③林錦珠1分12秒7

400m(混) ①早稲田 長谷、太田、坂井、古賀4分29秒5 ②中共 薰譚勝、穆祥雄、王強立、林錦珠4分30秒0

気温32度の水温25度4でコンディションとしては良い方であった。

この大会が中共に於けるメインイベントのせい、とても盛んで周恩来先生も現はれ、選手一同に握手を求められた。

この大会では暑さ負けと疲れからとで充分に力を発揮する事が出来なかった。

中共側は平泳は特にすばらしくこの種目だけ2種目と泳ぐ事を要求された。競技会全体の所要時間が約1時間半なので、平泳3種目泳ぐ事は選手に気の毒だった。

平泳の泳ぎとしては日本ではあまり喜ばれない、猫背で手はあまり伸ばさず小さく浮きをとるだけ、足は膝が落ちて巾がせまく、蹴始めが一番よくきいている。ピッチ

はとても早く上下動はなく、止まらない。

次に驚いたのは蝶泳であった。スタート後、手を伸ばしたまま水中を足のみで約30m近く泳いでいた。胸のすぐ下から動かしているのだからまるで魚が泳いでいる様ですばらしい。スピードもぐんぐん出て来る。1ストローク3ビートで、残念ながら手と足のバランスがうまくとれないせいか、手を掻き始めるとスピードが落ちて来る。手の掻き方を工夫すれば伸びる事であろう。

自由形、背泳にはあまり見るべきものがなかった。

大会後中共の水泳指導者である体育学校或は水泳学校の教師が約20名集まって学習組というものを編成して、我々と泳法練習法その他水泳に関する事に就いて3日間に亘り討議をした。これ等のメンバーの中には林錦珠のコーチに女の潘静嫻(広州体育学院游泳教研組所属)や穆祥雄の父親が参加していた。

参考書にはハンガリーやソ聯の泳法や練習に関する書物を持っていた。我々が土産に日本の水泳(斎藤氏木村氏等の著書)の本を出したら非常に喜んでた。

天津大会(天津学生チーム)

200m(平) ①穆祥雄2分46秒6 ②太田2分55秒7 ③楊昭忠3分5秒2

800m(自) 山中9分48秒8 ②上本11分9秒8 ③張樹田11分11秒8

100m(自) ①古賀58秒2 ②谷58秒4 ③穆瑞竜59秒4

100m(蝶) ①坂井1分4秒8 ②王輝炎1分14秒5 ③王者興1分14秒5

100m(背) ①長谷1分8秒2 ②梁石府1分24秒3 ③方春輝1分24秒8

200m(自) ①山中2分11秒5 ②横地2分14秒7 ③張樹田2分26秒1

100m(平) ①穆祥雄1分15秒0 ②太田1分21秒7 ③楊昭忠1分25秒5

天津は昭和13年牧野主将以下18名が来て当時の日本人租界プールで全天津チームと戦った思い出の深い土地である。

穆祥雄の父親穆祥豪がこの游泳学校々長をやっており13年の大会に泳いだという人で、私とは19年振りに再会であった。校長室を訪れると机上には古いスクラップブックが置いてあり当時の日本の泳法の記事など集められていた。

上海大会 (全上海学生海軍連合チーム)

- 100m (平) ①太田 1分17秒9 ②何満 1分19秒3 ③温九仔 1分20秒8
- 200m (自) 山中 2分07秒9
- 100m (蝶) ①坂井 1分5秒3 ②韋白平 1分9秒2 ③黄永浜 1分14秒8
- 100m (自) ①古賀 57秒7 ②谷 59秒2 ③横地 1分0秒1
- 100m (背) ①長谷 1分6秒8 ②張木尨 1分13秒4 ③謝善富 1分14秒4
- 200m (平) ①太田 2分51秒8 ②何満 2分56秒9 ③曹洪机 2分57秒6
- 400m (自) ①山中 4分36秒9 ②上本 5分3秒7 ③王者明 5分6秒7
- 200m (継) ①早稻田 (谷, 長谷, 横地, 古賀) 1分45秒4 ②中共 1分45秒5

上海地区は極東大会が行われていた所だけに盛んで、女子背泳に柳玉森 (17才) 100m を1分22秒4で泳いでいた。フォームも良く、まだまだ伸びる選手である。水泳選手の中には華僑が多く、インドネシヤ、其の他の近東地区から引揚げて来た人が多い様であった。

廣州大会

- 100m (自) ①古賀 58秒0 ②横地 1分0秒2 ③楊文忠 1分01秒5
- 200m (平) ①韋焜沅 2分45秒2 ②莫国雄 2分49秒1 ③太田 2分52秒3

- 100m (背) ①長谷 1分6秒1 ②陳世珠 1分16秒3 ③徐偉波 1分30秒9
 - 200m (自) 山中 2分7秒4 ②上本 2分21秒3 ③張禧 2分31秒9
 - 100m (蝶) ①坂井 1分6秒2 ②芬鉄雄 1分10秒8 ③徐錦均 1分15秒5
 - 100m (平) ①曾英逸 1分16秒4 ②莫国雄 1分16秒5 ③韋焜沅 1分17秒2
 - 200m (継) ①早大 1分45秒8 ②中国 1分46秒2
- 香港が近くにあるためか南地区で一番盛んな所である。観客も多く水球のエキシビジョンマッチも見せて呉れた。ルールは改正前のものを使用していた。
- 夜というのに気温27度水温34度 (氷を入れて3度下げた) という悪コンディションにも拘らず、旅になれたり最後の大会であったりしたせいか好記録を残す事が出来た。
- 我々は一人の故障者も出さず7月16日、中共を後にして翌17日無事羽田に帰って来た。

× × ×

追記

北京を振出に指導者で編成された学習組のメンバーとは、各地での大会の後には勿論の事車中或いは食事中機会ある毎に水泳に関するあらゆる事の質疑応答を行った。討論の好きな国民とはいへ非常に熱心である。

解放後のプール建設は100を数えられている。

体育施設のある箇所には必ずといってよい程毛沢東首席の筆になる「發展体育运动增強人民體質」と書いた額がかゝけてある。

若い人の娯楽をスポーツに向けている。ソ連に続くスポーツ王国になるのもあまり遠くないであろう。

(筆者本連盟常務理事・競泳委員)

〇〇石本隆君に決定〇〇

昭和32年度日本水泳最優秀選手

日本水泳連盟では本年度水泳界の最優秀選手として、バタフライの石本隆君を決定、例年施行される読売新聞社制定「日本スポーツ賞」に推薦した。

推薦理由は次の通りである。

- 1954年200m バタフライに2:20.8の世界新記録を作って公認される。
- 1955年日米対抗水上競技大会200m バタフライに優勝し、同年不敗、同年の世界ベストテン第1位2:23.6 (長水路世界最高記録)
- 1956年メルボルン・オリンピック200m バタフライ第

- 2位、同年世界ベストテン200m 第2位 (2:19.6) 100m 第1位 (1:02.0長水路世界最高)
- 1957年100m バタフライに1:01.0, 1:01.2, 1:01.3, 1:01.4, 1:01.5, 1:01.6, 1:01.7, 1:01.8で泳ぎ (世界標準記録1:03.5) 8の世界記録を作って世界水準をはるかに抜く400m メドレーリレーに日大チームが4:17.8の世界新記録を作ったが同君は途中計時乍ら100m バタフライを59.7の驚異的記録で泳ぎ貢献している
- 性質は極めて温厚なるも、内に不撓不屈の斗志を有し学生スポーツマンの模範とするに足る。以上

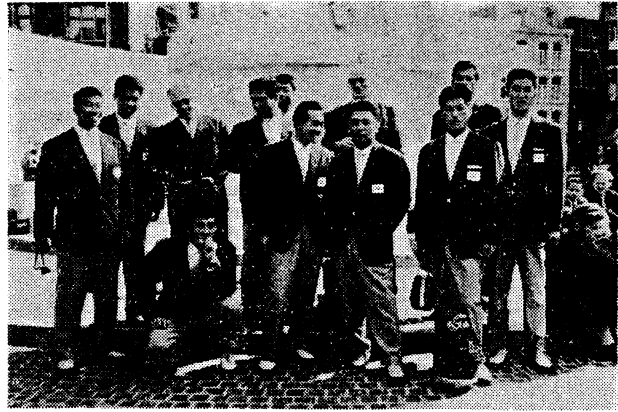
パリー大会に参加して

鵜 田 武

吾々水球チーム一行11名は8月21日、23時59分羽田を出発、バンコックで10時間休憩の後、エヤー・フランスに乗換え、24日午前4時パリーに無事到着いたしました。

飛行場で先発の村上団長及び大使館の人々の出迎えをうけて、早速大会宿舎にあてられているパリー大学の寄宿舎に入りました。この宿舎は大変立派なもので部屋は全部個室で、各部屋にシャワーの付いた仲々すみ心地のよい宿舎でした。到着の24日はすぐ部屋の割当をすませ旅のつかれを慰むべく其の1日は休養とし、翌25日から練習を開始いたしました。練習場はメトロという地下鉄の会社の総合グラウンドにあるプールを使用する様になっており、宿舎から徒歩で10分許りという近い所にあるので非常にラクでした。而し水温が17度というのには吾々一同きを冷しました。そこで早速大会組織委員会に連絡して試合場のプールの水温を問合せた所、やはり17度前後との事でいささかうんざりしましたが、どうにもならない事なので一日も早く水に馴れる事が肝心だと思い3日間はボールからはなれて、午前、午後と2回を泳ぎ(2,000・2,500m)だけに専念しました。そうこうする内、ブラジル・チームを始めとしてドイツ、ハンガリー、ユーゴ等チームが到着いたしましたので、相手に馴れる事、又相手チームに対する作戦を考えるためにもどんどん練習試合をやった次第です。大体この様にして午前を基礎練習、午後を練習ゲームか、フォーメーションの練習というスケジュールで一週間を過し、試合前の10日間を十分に活用したのですが、日本で25~26度の水で練習して来たのが、急に10度近くも低い17度という水に馴れる事が仲々むずかしく、調子の出ぬまゝに大会にのぞんだわけです。而しこれ迄の練習試合を通じてユーゴ、ハンガリーには及ばないまでも、ブラジル、ドイツには何んとか勝てるのではないかと選手一同も心ひそかに3位をねらって闘志満々試合にぶつかって行ったのですが、いざ試合となると各国チーム共練習試合では見られなかった程の力を発揮するのに反し、日本チームは国際試合初出場の弱さがわざわいして、思わぬ所できりこぼし等が出てこゝ一番という所でブラチル、ドイツには惜敗いたしました。

ではこゝで各試合の結果を御紹介いたします。



アムステルダム到着先年来日し各大学をコーチしたスモール氏を囲んで記念撮影

試合は9月5日から8日迄の4日間、パリー市内のスタッド、ノーティックスというプールで行われました。

このプールは宿舎からバスで40分許りの処にあり、試合当日は毎日バスで試合1時間半位前にプールへ運んでくれました。試合は日本を出る時にはハンガリー、ユーゴを初め日本を含めて9チーム参加という風に聞かされていたのですが、現地で聞くとユーゴ、ハンガリー、ドイツ、ブラジル、ルーマニア、日本と6チームだとの事でしたが結局ルーマニアが不参加となり5チームでリーグ戦方式で試合を行う様になりました。

○9月5日

第1試合 ユーゴ 14 $\left\{ \begin{matrix} 5-0 \\ 9-0 \end{matrix} \right\}$ 0 ブラジル

第2試合 ハンガリー ~ 日本

BRINNER G.K. 加藤

KATONA L.B. 小野

SALAMON R.B. 佐藤(孝)

LEPIES H.B. 沢村

HORVATH L.F. 宮村

SZALAY C.F. 田久保

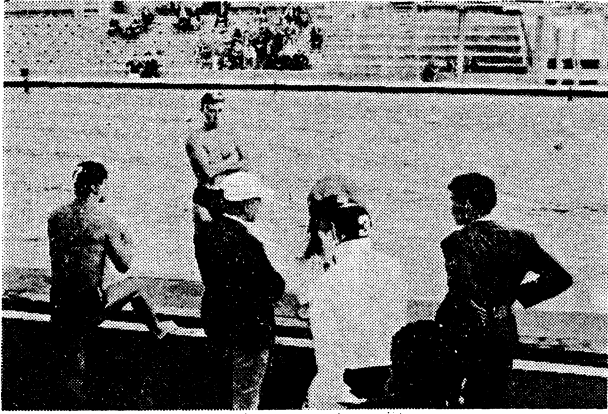
KARPATI R.F. 高木

12 $\left\{ \begin{matrix} 6-2 \\ 6-0 \end{matrix} \right\}$ 2

得点

ハンガリー = HORVATH (2) KARPATI (5)

SZALAY (3) KATONA (2)



試合中 (パリー大会) の一コマ対ブラジル戦のハーフタイム

日本=沢村 (2)

○9月6日

第1試合 ブラジル 6 $\left\{ \begin{matrix} 2\sim4 \\ 4\sim3 \end{matrix} \right\}$ 7 ハンガリー

第2試合 ユーゴスラビア ~ 日本

MUSKATIROVIC	G.K.	佐藤 (賢)
CUKVAS	L.B.	浅沼
SUSTE	R.B.	小野
JEZIC	H.B.	沢村
ARNERI	L.F.	宮村
ZUZEJ	C.F.	田久保
ROJE	R.F.	高木

14 $\left\{ \begin{matrix} 4\sim0 \\ 10\sim1 \end{matrix} \right\}$ 1

得点

ユーゴスラビア=ROJE (6) ARNERI (2) ZUZEJ (4)
JEZIC, CUKVAS

日本=高木

○9月7日

第1試合 ユーゴスラビア 6 $\left\{ \begin{matrix} 2\sim1 \\ 4\sim4 \end{matrix} \right\}$ 5 ハンガリー

第2試合 ドイツ ~ 日本

RIEKERT	G.K.	加藤
GROHER	L.B.	浅沼
BUCHBJNDER	R.B.	飯田
STRASSER	H.B.	沢村
WILKE	L.F.	宮村
AUGUST	C.F.	田久保
LINK	R.F.	高木

5 $\left\{ \begin{matrix} 3\sim1 \\ 2\sim3 \end{matrix} \right\}$ 4

得点

ドイツ=STRASSER (2) WILK, LINK, AUGUST

日本=宮村 (3) 浅沼

○9月8日

第1試合 ブラジル ~ 日本

LARA	G.K.	佐藤
PERRI	L.B.	飯田
K.SANTOS	R.B.	沢村
ALVEREZ	H.B.	佐藤 (孝)
F.SANTOS	L.F.	宮村
ALMEDIA	C.F.	田久保
CRUZ	R.F.	高木

4 $\left\{ \begin{matrix} 3\sim2 \\ 1\sim0 \end{matrix} \right\}$ 2

得点

ブラジル=SANTOS (2) CRUZ; ALMEDIA

日本=高木, 田久保

第2試合 ドイツ 0 $\left\{ \begin{matrix} 0\sim3 \\ 0\sim3 \end{matrix} \right\}$ 6 ハンガリー

	ユーゴスラビア	ハンガリー	ドイツ	ブラジル	日本
ユーゴスラビア	/	○	○	○	○
ハンガリー	●	/	○	○	○
ドイツ	●	●	/	●	○
ブラジル	●	●	○	/	○
日本	●	●	●	●	/

優勝 ユーゴスラビア

2位 ハンガリー

3位 ブラジル

4位 ドイツ

5位 日本

以上の様な結果でした。

大会終了後 午後7時よりベルサイユ宮殿にて閉会式が挙行され、参加各国が集まり盛大なパーティーが行われ、併せてベルサイユ宮殿の見学があり、11時頃閉会式が終了いたしました。更に引続いて午前5時迄パリー市内で大ダンスパーティーが催されたのですが、翌日の出発にそなえて、これには参加せず宿舎に帰り始めて寛いだ気持ちで床に入りました。

翌9日6時に起床、8時30分パリー発のKLM航空でアムステルダムに向け出発、同日午前10時にアムステルダムに到着、スモール氏の出迎をうけて早速これからのスケジュールの打合せを行いました。こちらを出発する前の吾々の希望としては、1ヶ所に腰をすえて、単にゲームをするというのではなく、彼等の中に入って練習方法の研究を第一の目的にして、それにゲームをおり込ん

で行くといった考えでしたが、オランダ水連では目ぼしいクラブチーム、7チームと試合を行う様全て準備が出来ており、今更こゝでスケジュールの変更も出来ない状態なので9日間滞在する内にアルヘン、ゴータ、ライデン、ロッテルダム、アムステルダム、エンドハーベン・ブッサム、と7ヶ所を転戦すべく、早速汽車の旅に出掛けました。これからは毎日相手を求めての武者修業と同じで、汽車で、2~3時間ゆられて行っては試合をし、翌日は又荷物を持って次の目的地へと向う状態で仲々苦しい旅行でした。

しかし幸にプールは全部室内プール(25mプール)で水温は21~23度位いでしたので其の点一同ホットしましたが、今度は病人が出て閉口しました。病気といっても大した事はないのですが、疲れと朝晩の気温の変化が激しいので風邪ひきが多く、思う様なメンバーを組む事が出来ず其の点大変頭をいためました。全員が協力してどうか全日程をこなす事が出来て私としても安堵の胸をなでおろした次第です。

各地転戦の成績を御紹介いたしますと、

9月9日：アルヘン水泳クラブ

A.Z.C. 8 { $\begin{matrix} 4\sim 1 \\ 4\sim 1 \end{matrix} \}$ 2 日 本

9月10日：ゴータ水泳クラブ

G.Z.C. 13 { $\begin{matrix} 7\sim 2 \\ 6\sim 5 \end{matrix} \}$ 7 日 本

9月11日：ライデン水泳クラブ

L.Z.C. 8 { $\begin{matrix} 4\sim 5 \\ 4\sim 1 \end{matrix} \}$ 6 日 本

9月12日：ロッテルダム水泳クラブ

R.Z.C. 5 { $\begin{matrix} 3\sim 5 \\ 2\sim 7 \end{matrix} \}$ 12 日 本

9月14日：アムステルダム水泳クラブ

A.Z.C. 8 { $\begin{matrix} 5\sim 1 \\ 3\sim 2 \end{matrix} \}$ 3 日 本

9月15日：エンドハーベン水泳クラブ

E.Z.C. 2 { $\begin{matrix} 2\sim 1 \\ 0\sim 0 \end{matrix} \}$ 1 日 本

9月16日：ブッサム水泳クラブ

B.Z.C. 5 { $\begin{matrix} 2\sim 1 \\ 3\sim 1 \end{matrix} \}$ 2 日 本

以上の様な状況で1勝6敗というみじめな成績に終わってしまったのですが、この7試合を通じて吾々としては色々数多くのそして型の変ったチームと試合をする事が出来学ぶ点が多かった事は有難い事であったと考えます。こうして17日15時オランダに別れを告げ、ローマに

飛んだのですが、パリー大会の現地で帰りにイタリアで試合する予定が、イタリアが不参加のため連絡がとれず、翌18日21時50分ローマ発帰国の途につき9月20日23時30分全員無事に帰着いたしました。

この約1ヶ月間に及ぶパリー大会並びにオランダ遠征に於て吾々は多くの事を学ぶ事ができ、今後の進むべき途も確きりした物をつかむ事が出来たと思います。一般的な動向としては違いはなく常に動き乍らチャンスをつくり出し、ゴール・キーパーを左右に振って完全な得点をするといった戦法が殆んどでした。

しかしここで考えなくてはならない事は作戦的には劣っていないと何故敗れたかという事、国際試合の経験不足か、水温という外的な条件を取払って考えて見ると彼等は全て確実にプレイをこなしている、即ちハンドリング、出足、試合運び等が実にタイムリーに正確に行われ動きに無駄がない、いいかえれば水球を確実にマスターしている。完全な基礎技術の上に組立てられたオールランダーシステムであるという事がいえるのに反し、吾々のは基礎技術が不完全な上に組立てられたシステムであったという事を痛切に感じました。ブラジル、ドイツ、に今一步と迫り乍ら勝てなかった理由も其処にあったと思います。

基礎技術を完全にマスターする以外に方法はないと断言出来ると思います。

吾々11名の者もこの1ヶ月間に得た貴重な体験を生かし、目前のアジア大会に総力をあげて皆様の御期待に答えたいと存じております。

しかし今後前述の基礎技術をマスターする事が出来れば、そしてこれらの基礎技術を組合せてこれに強力な泳力をプラスすれば必ずや世界の水球界の一角に喰い込む事が出来ると信じます。

よく体力の差が云々されますが、私は決して恐れる事はないと考えます。何故ならタイムリーな鋭い出足、相手の意表をつく廻転技術、攻防転換の逆チャンスに敢行する速攻、これ丈けがマスターされれば体力の差をこれらの技術により相手を引きはなし水あきをつけて楽な試合が出来る筈です。即ち現在行われているオールランダー・システムを完成して、体力の差から来るハンディキャップをカバー出来るのは前述の基礎技術を完全にマスターする以外に方法はないと断言出来ると思います。

吾々11名の者もこの1ヶ月間に得た貴重な体験を生かし、目前のアジア大会に総力をあげて皆様の御期待に答えたいと存じております。(筆者は本連盟理事水球委員)

最近のプール建設状況について

深 谷 俊 明

昭和32年を省みて、プールの建設状況ならびに最近の傾向を述べて見たい。

(1) 東京都営室内プールについて

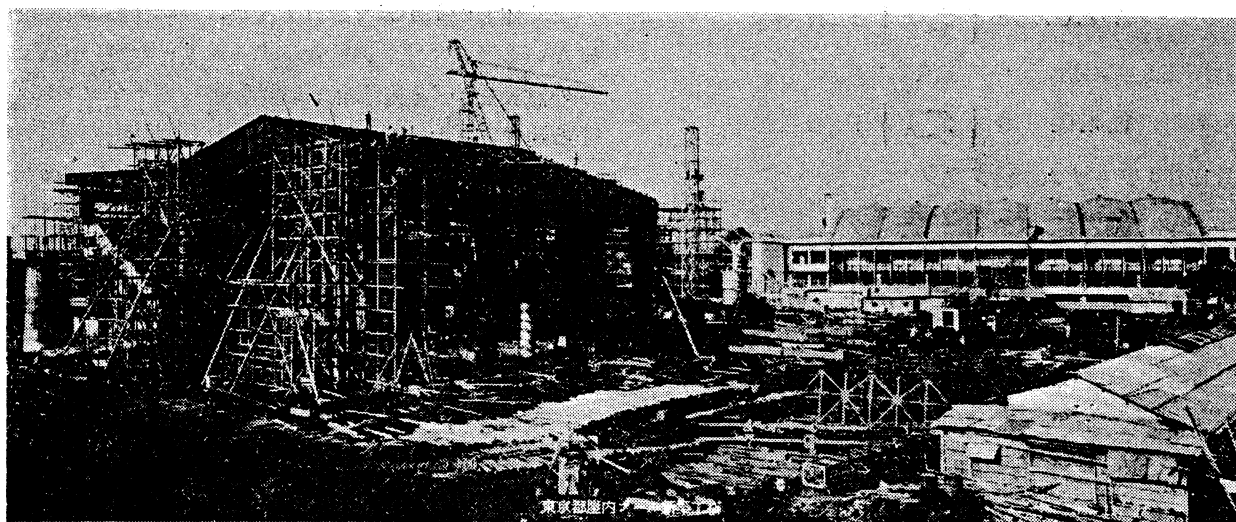
明春5月のアジアオリンピックの水泳競技の会場として予定されている東京都営室内プールは、総工費6.7億円で明治神宮外苑に工事中であるが、現在75%程度の進捗状態である。このプールは、水泳人には一日千秋の思いで待たれている「夢のプール」であるが、おそくとも4月中旬には立派に完成すであろう。このプールの概要は大体つぎの通りである。

競泳プール	50m×20m×深さ(1.30m~2.00m)		
	9コース		
飛込プール	8角形 25m×22.5m×深さ(最深5m)		
飛込台	5m, 7.5m, 10m		
飛板	3m		
	{アルミ板	1	
	{プラスチック板	1	
	{木 板	1	
	1m	3	
収容人員	4,000人		

このプールは、規模においても、内容においても室内プールとしては、イギリスのエンパイヤープール(1948年のロンドンオリンピック大会に使用)やオーストラリアのメルボルンオリンピックプールに比して遜色のない立派なプールであることをまず誇り度い。本プールに濾過循環装置、恒温装置が施こされているのはもちろんであるが、室外プールと異り、換気、通風、採光、照明、音響、水蒸気の凝結防止、水銀灯使用の水中照明、水中窓、機械審判電気装置、機能的な司令室等、設計上特別細い注意が払われているのである。この世界的な室内プールの敷地決定および実現にあたり、田畑前会長が体協内、関係各官庁にたいして並ならぬ努力を払われたことは銘記しなければならない。なお、松沢一鶴氏がそのウ蓄を傾けて設計の総指導に当り、施工は東京都臨時競技場建設事務所鈴木真美所長が献身的な努力をつづけ、実施設計は村田政真、横山不学、大滝基、黒畔健太郎、宍道洋一理事、等の諸氏が当った。これらの諸氏の協力にたいして深く感謝する次第である。

(2) 各地のプール建設状況

近年プールの建設が盛んになり、公認プールの数も相当急上昇している。次表は今年度公認されたプールの一



完成を急ぐ東京都営室内プール(右後方に見える建物は東京都体育館)

覧表であるが、この数は、本連盟創立以来のレコードであり、まさに日本新記録の樹立である。

32年度公認プール一覧表

公認番号	名称	長さ	団体名
13再公認	天理	プール50m	奈良県水泳連盟
16	栃木県総合運動場	" "	栃木県水泳協会
33	山口県	" "	山口県水泳連盟
65	山梨県営	" "	山梨水泳連盟
66	鯉沢町営	" "	"
67	旭化成	" "	宮崎県水泳連盟
68	小松市末広	" "	石川県水泳協会
69	大牟田市延命	" "	福岡県水泳連盟
70	静岡東中学校	" "	静岡水泳協会
71	津島市営	" "	愛知水泳連盟
72	防衛大学校	" "	神奈川県水泳連盟
73	野尻湖	" "	野尻湖水泳協会
182	大森八中	25m	東京都水泳協会
183	石動	" "	富山県水泳協会
184	大船渡市営	" "	岩手県水泳協会
185	宮古市営	" "	"
186	北上	" "	"
187	京北学園	" "	東京都水泳協会
188	京華学園	" "	"
189	鳴和中学校	" "	石川県水泳協会
190	東京水産大学	" "	東京都水泳協会
191	真岡高校	" "	栃木県水泳協会
192	羽咋高校	" "	石川県水泳協会
193	長岡商業高校	" "	新潟県水泳協会
194	第一銀行清和園	" "	東京都水泳協会
195	大森三中	" "	"
196	八幡中学校	" "	浜名湾水泳協会
197	第一生命	" "	東京都水泳協会
198	峯温泉	" "	伊豆駿河湾水泳協会
199	宇部鉱業所東見初	" "	山口県水泳連盟
200	" 沖ノ山	" "	"
201	循誘小学校	" "	佐賀県水泳協会
202	佐波小学校	" "	山口県水泳連盟
203	川崎中学校	" "	福岡県水泳連盟
204	富士銀行済美山	" "	東京都水泳協会

この外に、審査中のものに、野尻湖水泳協会 3、千葉水連 2、浜名湾水泳協会 1、埼玉水連 3、石川水泳協会 1がある。

これで、加盟団体が公認プールをもたないのは、沖縄水泳連盟、徳島県水泳連盟の2団体のみとなった。

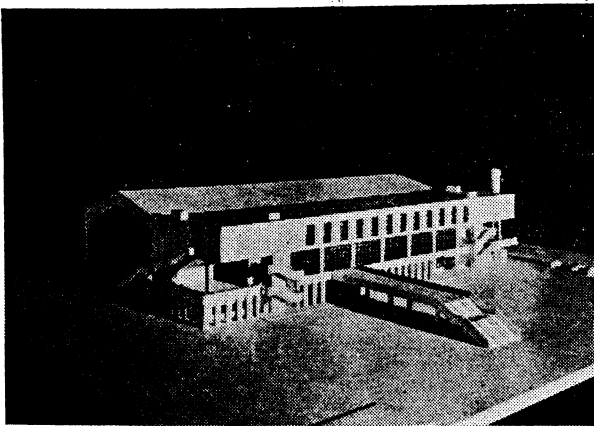
プールの最も普及している加盟団体は、埼玉、浜名湾、野尻湖、福岡であるが、ことに埼玉は大野元美会長が県教育委員をしていた関係で、県下の全高校に普及し小中学校にも相当設置され、ことに本庄市などは一度に3校のプールが同時に完成している。埼玉県の中央プールとしては大宮プール(50m)をもち、各プールではそれぞれのプールに応じた地方大会を開催するなど、理想的な運営が行われている。

最近、工場、会社、等でレクリエーションをかねたプールが建設され、社員および家族の保健向上が考えられているが、喜ばしい現象である。

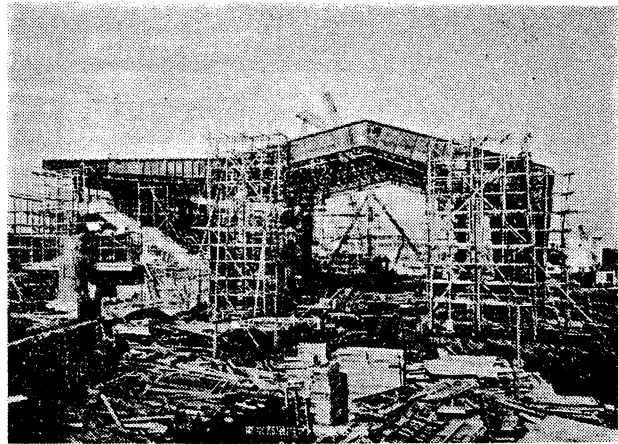
しかし、わが国のプール普及率は満足すべきほどのものではないことを知らなければならない。最近のアメリカのプール関係の雑誌 Beach and Poolによれば、アメリカのプール数は約50,000である。これを、アメリカの人口1.7億でわればプールあたりの人口は約3,400人となる。わが国のプール数を正確に調査した資料を持たないが約3,000位あることが推定できるのでこれをわが国の人口を1.0億としてプールあたりの人口を求めると33,000人程度となる。わが国でプールの最も普及されている静岡県ではプールコあたりの人口は約20,000人である。従って、アメリカの1/10程度の普及率であることを思えば、プール建設に一層の努力をして水泳人口の増加を図らなければならない。

(3) 飛込プールについて

飛込プールの設備のあるプールは神宮、振甫、扇町、甲子園、犬理、野沢、呉、大谷、浜松、野毛山、鎌倉、



東京都営室内プール模型



工事中の東京都営室内プール

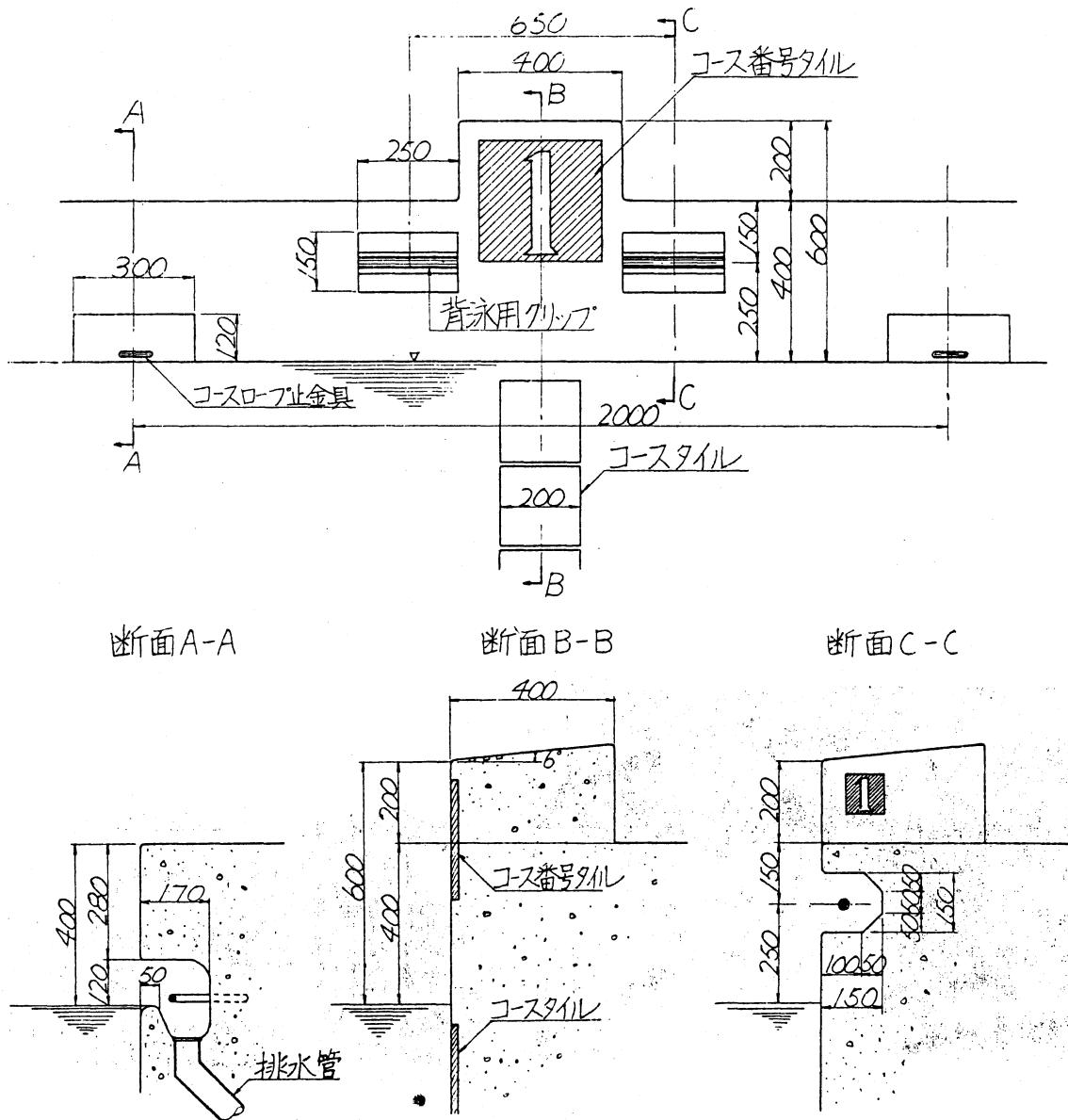
宇都宮、等であるが、飛込プールは一般に建設費が高く、利用者が少ないので普及が競泳プールに比較して遅れているが、最近、既述の東京室内プール、岡山プール、来年度国体開催予定の富山県営高岡プールに建設され、また、山口県宇部市営プールにおいても計画されているようである。これらの飛込プールは、その建設材料の節約および使用水量の節減をはかるため、松沢一鶴氏が多角形の飛込プールを考案し、これが各地に建設されている。従来の飛込プールを多角形プールとすることによって、使用材料および水量を、20~30%程度節減できるようになった。

従来、飛込プールの水深は最深部を4.5mとされていたが、これは規定のminであって、5.0m程度とすることを本連盟飛込委員会で推奨しているから、各地で飛込プールを計画される場合には最深部を5.0mとすること

を希望する。

(4) 循環濾過装置について

最近、循環濾過装置を設備するプールが増加しつつあることは、プール衛生上また、普及上喜ばしいことである。従来、上水道の施設がなくプール用水に苦勞していた地方や冷い井戸水に悩んでいた地方にもプールの普及が考えられるようになった。アメリカの各州では、法令で、この循環濾過装置がないプールは許可されず、公衆衛生協会 (The American Public Health Association) においてプール用水を監督しているようである。日本においても将来は、厚生省あたりで、この濾過装置の普及発達に努力するとともに補助金の交付についても努力してもらいたいものである。現在、建設費は50mプールで600万円~800万円、25mプールで200万円~300万



円程度で、プール建設費程度もかかるのが、この普及発達を阻止しているように見られる、アメリカにおいては、プール建設費の $\frac{3}{4}$ 程度であるが、この程度になれば、日本においても相当普及するであろうことが考えられる。しかし、現在各プールにこれを要望するのは無理である。わが国においては、戦後、天理、鎌倉、立教小学校に設置されてから、東京都内でも相当設置され、地方では仙台、館山、宇部、高岡にも設置されるようになった。将来は普及される性質のものであるから、プールを設計する場合には濾過装置用の給水管をコンクリート壁中に埋めておくよう配慮することは望ましいことである。

(5) 競泳用プールのオーバーフローについて

オリンピックプールにオーバーフローがなくなつてから、オーバーフローのないプールが新しい傾向のようになった。しかし、これは一考を要する問題のように考えられる。競泳用プールにおいてターンにはこのオーバーフローをなくした方がよいのであるが、未熟な子供が泳ぐ場合、また、プール衛生上このオーバーフローの果す効果には大きいものがあることを考えなければならない。クイックターン練習が必要な大学の各練習プールにオーバーフローがあるのに、小学校プールにオーバーフローをなくして新しいプールとして得意になっているのも過渡期とはいいいながら余りにも対照的である。筆者によくオーバーフローを無くしろ、いやつけると両方の意見を聞くのであるが、筆者は、水泳の普及度を考えて対策を講ずべきであると考えている。それで、これについて相談を受けた場合、比較的水泳技術のレベルの高い、安房一高、静岡県下田北高、静岡県伊東一中ではオーバーフローを無くするよう指導したが、一般の公衆プールや

小、中学校プールでは、衛生上から、また、保安上からもオーバーフローをつけるよう指導している。これについて、一般の方々の御意見を聞かせて戴ければ幸せである。なお、公式試合を行う公共性のあるプール、例えば、東京都営室内プール、高岡プール、宇部プール、等においては、図のように一部オーバーフローをつけて、タン、ツパのはき口を設け、この部分の断面は、タン・ツパがプールにかえらないよう、従来のオーバー・フローのような断面とするように指導している。

(6) プールの若返りについて

プールを建造して、20~30年も経過すると、その形状が旧式になったり、地盤低下、等でコンクリートが割れて漏水が甚だしく使用に耐えなくなったり、やむなく廃棄したり、廃棄しなくても無用の長物化される場合が相当ある。このような場合、僅かの修理費でこれを更生できることがある。その例としては静岡県下田北高プールや来年度国体の水球予選用のプールとして予定されている富山県福野町菅プール等があるが、紙数の関係もあるので、その詳細については他の機会に述べる予定である。

(7) プール建設の補助金について

公共プールの建設が失業対策事業の対象として認められるようになり、全工費の半額が補助されている実例がある。これを特殊例として取扱っているかどうかを関係官庁とも十分打合わせ、これが、今度一般に適用できるものであれば適当な機会に発表する予定である。この他、建設省公園施設課、都市建設課、国家消防庁などに、プールの性格により異なるけれど多少なりとも補助金がでる場合もあるから、プールの建設においては、本連盟施設委員会に一応の相談をされたい。

(筆者は本連盟常務理事・施設委員長)

三上節造氏・片山兼吉氏逝去

本連盟評議員普及委員であった三上節造氏は脳軟化症で永らく御静養中の所、11月27日永眠された、告別式は11月30日午後2時東京牛込、聖公会に於て執行され上野、松沢両氏その他多数の普及委員が会葬し日本水泳連盟では霊前に花輪を捧げ、哀悼の意を表した。

氏は水泳に対し深い愛情を持たれ、特に水泳史研究に於て多大の貢献をされ、その造詣は非常に深いものであり誠に惜しい方であった。

氏が佐賀高校(旧制)水泳部長時代は佐賀高校はインターハイの第一線校であった、生前は日本大学に英語の教鞭をとっておられた、享年74才

遺族 三上加那於氏 東京都練馬区豊国北5の28

(上記両氏に日本水泳連盟は謹んで哀悼の意を表します)

日本水泳連盟関西支部常務理事片山兼吉氏は永らく病氣療養中の所7月3日午後4時15分大阪城東病院に於て心臓弁膜症で惜しくも逝去された、告別式は7月5日自宅に於て執行され高石勝男氏外多数の水泳関係者が会葬し日本水泳連盟及び関西支部より霊前に花輪を供へ哀悼の意を表した。

氏は浜松一中時代より水泳界の麒麟児とうたわれインターミドル大会には短距離自由形に幾度か、優勝し母校浜松一中の全国制覇に貢献した、後明大に進み昭和7年ロスアンゼルス・オリンピック大会に日本代表選手に選ばれ活躍した、その後病を得て、不遇の内逝去された由で誠にお気の毒であった。享年44才

遺族 片山久仁子 尼ヶ崎市西大島北ノ口382の1



世界の戸外シーズンの記録をこの号1冊に纏めねばならないので、贅沢なようですがどれを削るかということに苦心する始末です。そのため重要な競技会でも記録的に劣る種目は省略せざるを得なかったのは申し訳ありませんが御諒承を願います。(坂本)

豪 州

豪州の誇るオリンピックの優勝者マレー・ローズとジョン・ヘンリックスの両選手は今秋アメリカの南カリフォルニア大学に入学し、ローズはテレビ、シネマに、ヘンリックスは貿易コースに籍を置いた。校庭から400yの処に50mの戸外プールがあり、気候も豪州と同じで、練習も充分できるので、春のインカレまでには絶好調となるだろうと報じられている。

ヘンリックスは今夏商用を兼ねて北欧各地を巡遊した。今シーズンは僚友デヴィットにお株を奪われて精彩がないといわれていたが、北欧選手とは段違いの実力を発揮して完勝した。この間100m自由形に本年度自己最高の56.2をマークした。

アメリカ

選手の主力は日本ほどではないが、やはり学生が中心である。春の室内シーズンを終って、大学コーチ連合(委員長は数回来朝したメデイカ)は恒例によって"1957年度全米学生チーム"を発表した。順位は勝敗を主として記録は従となっている。

50y 自	1. キーター	22.1
	2. ダイヤー	22.4
	3. モーリス	22.3
100y 自	1. ダイヤー	49.5
	2. ハンレー	49.7
	3. モーリス	49.7
220y 自	1. ウールジィ	2:02.5
	2. ハンレイ	2:03.8
	3. ファーレル	2:07.3

440y 自	4. アンダーソン	2:07.0
	1. ウールジィ	4:38.2
	2. アンダーソン	4:39.9
	3. ナウス	4:42.7
1500m 自	1. メイヤーズ	19:04.8
	2. エリソン	19:05.5
	3. マクナミー	19:08.3
100y 背	1. クレップ	58.1
	2. ペンバートン	58.4
	3. ボーハン	58.8
200y 背	1. クレップ	2:07.8
	2. ペンバートン	2:08.7
	3. ブロード	2:12.3
100y 平	1. ディアソン	1:03.0
	2. ホプキンス	1:03.2
	3. ファッチェン	1:03.6
200y 平	1. ホプキンス	2:20.0
	2. ファッチェン	2:21.7
	3. レインク	2:23.4
100y バ	1. ウイギンス	54.3
	2. ジェコ	54.6
	3. タナベ	55.6
200y バ	1. ジェコ	2:09.5
	2. ホンダ	2:12.4
	3. ファッチェン	2:13.7
200y 混	1. ウイギンス	2:07.0
	2. ジェコ	2:09.4
	3. モーリス	2:10.5
400y 継	1. エール大	3:23.8
400y 混継	1. ミシガン大	3:50.0
	2. ミシガン州大	3:50.0

ナカマ記念大会 ホノルル 100m 塩 7/11~14

400自	1. オネケア	4:37.8
100バ	1. "	1:05.8
	2. ホンダ	1:06.5
100背	1. ワイザー	1:08.1
200自	1. オネケア	2:11.2
	2. ムーア	2:11.2
200バ	1. ホンダ	2:37.2
100自	1. ムーア	58.3
800自	1. オネケア	9:50.1
200背	1. ワイザー	2:32.4
1500自	1. オネケア	19:00.5

全米戸外選手権 ジョン・ケリー (フィラデルフィア)

50m 8/1~4		
1500自	1. ブリーン	18:17.9

2. オネケア 18:42.4
 3. フォース 19:09.6
 400混 1. ヘンリッヒ(17才) 5:15.6 (世新)
 2. ヨーシク 5:22.8
 200バ 1. " 2:22.0 (22.4)
 2. シェコ 2:28.0
 3. バートン 2:30.2 (29.2)
 100背 1. マッキニー 1:04.4 (04.7)
 2. クレップ 1:05.8
 3. シューファー(16才) 1:06.5
 4. オヤカワ 1:06.7
 200平 1. サンギリー(墨) 2:44.0 (43.9)
 2. マトソン 2:45.6
 3. ホプキンス 2:46.2 (43.2)
 200自 1. ハンレー 2:08.4 (08.2)
 2. オネケア 2:09.3
 3. キャス(16才) 2:10.6
 4. ブリオン 2:10.8 (10.5)
 100平 1. ヒューズ 1:12.1
 2. フリードマン 1:13.7
 3. サンギリー(墨) 1:14.4 (14.2)
 100バ 1. ウイギンス 1:02.8
 2. ラーソン 1:03.1
 3. ヨーシク 1:03.9
 4. シェコ 1:04.0
 100自 1. ハンレー 57.3
 2. キャス 57.5
 3. オーブリー(豪) 57.8
 4. アンダーソン 57.8
 400自 1. ブリオン 4:35.1
 2. オネケア 4:39.9
 3. キャス 4:45.7
 200背 1. マッキニー 2:21.7
 2. シューファー 2:31.0 (30.2)
 3. マレー 2:31.6
 400混継 1. インディアナポリス 4:21.6
 2. コカコラSC 4:23.7
 800継 1. ニューヘブン 8:53.7
 2. インディアナポリス 8:58.2
 チーム得点 1. インディアナポリス 59
 2. コカコラSC 47
 3. ニューヘブン 38
 個人得点 1. ブリオン 17
 2. ヨーシク 16
 ニューロンドン 55y 8/下旬

110yバ 1. ヨーシク 1:03.9
 ニューヘブン 50m 9/15
 1哩 1. ブリオン 19:22.0

ヨーロッパ

イギリス—オランダ グラックプール 55y塩 5/17.18
 110y自 1. ウイレムス(和) 58.8
 2. マッケチニー(英) 58.8
 440y自 1. ブラック(16才)(英) 4:43.2
 220y背 1. サイクス(英) 2:27.0
 2. スワイゼン(和) 2:33.6
 220yバ 1. ブラック(英) 2:33.4
 110y背 1. サイクス(英) 1:06.6
 2. スワイゼン(和) 1:09.0
 440y継 1. イギリス 3:59.9
 プラティスラバ(チェコ) 50m 5/下旬
 200平 1. クレイシ 2:45.4
 200バ 1. パズディレク 2:26.6
 100背 1. バシク 1:08.0
 100バ 1. パズディレク 1:05.6
 ブダベスト マルガリーテ島 50m 5/26
 100バ 1. ツンベク 1:03.4 (世新)
 ヘルシンキ(フィンランド) 50m 6/下旬
 100自 1. カイコ 58.2
 400自 1. " 4:41.6 (芬新)
 フランス50—70ポーランド・ジュニア対抗
 ワルシャワ 50m7/6.7
 400自 1. バステック(波) 4:40.5
 200背 1. クリストフ(仏) 2:30.6
 100背 1. " 1:05.9
 ブルノ(チェコ) 50m 7/上旬
 100平 1. スポジル 1:12.1(世新)
 グランプリ パリ 50m 7/13.14
 200自 1. ウイレムス(和) 2:10.3
 2. エミナント(仏) 2:11.4
 200背 1. コワニョ(仏) 2:29.5(仏新)
 2. クリストフ(仏) 2:30.2
 100平 1. ファビアン(洪) 1:16.7
 100バ 1. ツンベク(洪) 1:02.8(欧新)
 2. ピロレ(仏) 1:07.3(仏新)
 100自 1. エミナント(仏) 58.1
 2. ウイレムス(和) 58.6
 400自 1. ニエキ(洪) 4:46.3
 2. モンセレ(仏) 4:47.2
 100背 1. クリストフ(仏) 1:06.0

2. エルサ (伊) 1:07.7
 3. コバックス (洪) 1:08.0
 200平 1. デスミット (白) 2:44.9
 200バ 1. ツンベク (洪) 2:27.1
 2. ピロレ (仏) 2:29.7(仏新)

ローマ 50m 7/中旬
 100自 1. ブッチ 57.0(伊新)

フィンランド—エストニア ヘルシンキ 50m 7/16.17
 100自 1. カイコ (芬) 59.0
 400自 1. プレス (エ) 4:44.0
 2. カイコ (芬) 4:45.8
 1500自 1. プレス (エ) 18:58.2
 2. マギ (エ) 19:16.5
 200平 1. ローリツ (エ) 2:45.3
 2. ライロラ (芬) 2:46.4

西ドイツ—ハンガリー レンシゲン 50m 7/20.21
 100自 1. ボーマン (ド) 57.9
 400混継 1. 西ドイツ 4:27.5
 100背 1. ミールシュ (ド) 1:08.3
 2. コバックス (洪) 1:08.7
 200バ 1. ウェーベル (ド) 2:25.7
 2. ツンベク (洪) 2:28.8
 800継 1. 西ドイツ 8:52.9

ブダペスト 50m 7/下旬
 200平 1. ケンサギ 2:41.8(1:17.4)

第3回世界青年友好スポーツ大会
 モスコ 50m 7/31~8/7
 100自 1. ソロキン (ソ) 57.1(ソ新)(57.7)
 2. 林錦珠 (中共) 58.1(57.2)
 3. ニコラエフ (ソ) 58.2(58.5)
 4. ザベルタニー (ソ) 58.6(58.9)
 400自 1. ツーロルド (東ド) 4:31.4
 1:01.4 2:11.4 3:22.1
 2. ニキティン (ソ) 4:37.1
 3. バステック (波) 4:43.5(43.4)
 4. グレムロウスキー (波) 4:43.7(43.6)
 1500自 1. ニキティン (ソ) 18:25.2
 9:41.0 (ソ新)
 2. ストルザノフ (ソ) 18:41.7
 3. ラヴリネンコ (ソ) 18:48.7
 4. グレムロウスキー (波) 18:55.3
 200平 1. ミナシキン (ソ) 2:40.3(43.0)
 2. 戚烈雲 (中共) 2:41.4(41.7)
 3. クロポトウスキー (波) 2:43.3
 4. ゴロフチェンコ (ソ) 2:43.4(42.9)
 5. 穆祥雄 (中共) 2:43.5

100背 1. バルビエル (ソ) 1:05.5
 2. マジャーラ (洪) 1:05.9
 3. コバックス (洪) 1:06.7
 4. クヴァルディン (ソ) 1:07.1
 5. バシク (チエ) 1:07.4
 200バ 1. ツンベク (洪) 2:25.4(25.9)
 2. パズディレタ (チエ) 2:27.5(27.5)
 3. クリーズ (波) 2:31.4(31.7)
 4. イコノピソフ (ブルガ) 2:34.2
 5. ルバチュフ (ソ) 2:38.3(33.8)
 400混継 1. ソ連 4:21.3
 2. チェコ 4:24.6
 3. 中共 4:24.9
 800継 1. ソ連 8:34.5
 2. 東ドイツ 8:44.6
 3. ポーランド 8:57.0

グイスリレゲン (西ドイツ) 50m 8/月上旬
 100自 1. ボーマン 57.6(西ド新)

フランス選手権 パリ 50m 8/9~11
 200自 1. コリニョン 2:10.2 (1:02.0)
 2. エミナント 2:10.5 (1:01.8)
 100自 1. " 58.0 (58.7)
 2. カムン 58.6
 400自 1. モンセレ 4:43.0
 2. コリニョン 4:45.0
 100背 1. クリストフ 1:07.0
 200バ 1. ピロレ 2:26.3(1:10.3)(仏新)
 1500自 1. モンセレ 18:36.2
 2. コリニョン 19:10.3

ペサロ (伊) 50m 8/中旬
 800自 1. ロマニ 9:56.8 (伊新)

西ドイツ選手権 ランドシュット 50m 8/10.11
 100自 1. フェール 58.3
 2. ボーマン 59.0
 200自 1. ブリーケル 2:10.4
 400自 1. " 4:45.4
 1500自 1. ブリーケル 19:51.0
 100背 1. ミールシュ 1:08.9
 200平 1. ボディングル 2:44.1
 2. ルンベル 2:44.1
 200バ 1. ウェーベル 2:27.4

短距離の新人ボーマンは8/7 50m 水路で57.5を出した。

チェコ選手権 ブルノ 50m 8/18
 100平 1. スポシル 1:12.2(チェコ新)
 100背 1. バシク 1:08.0

200平 1. スボシル 2:43.6
 200バ 1. パズディレク 2:29.2
 ブダブスト マルガリーテ島 50m 8/19
 100バ 1. ツンベク 1:02.3(世新)
 スカンディナヴィアゲーム ヘルシンキ 50m 8/
 100自 1. カイコ(芬) 57.9
 2. ラルソン(典) 58.2
 200平 1. ライロラ(芬) 2:44.4
 ソ連選手権 モスコ 50m 8/26~
 400自 1. ニキティン 4:30.1(欧新)
 1:02.9 2:11.0 3:19.5
 2. ソロキン 4:38.2
 3. クリオコフ 4:40.0
 4. ストルザノフ 4:40.0
 100自 1. ソロキン 57.0(ソ新)
 2. ニコラエフ 57.6
 3. ゴロベイ 57.8
 200平 1. アントニアン 2:40.8(ソ新)
 2. ゴロフチェンコ 2:42.8
 3. ミナシキン 2:43.2
 100平 1. ミナシキン 1:12.9
 1500自 1. ニキティン 18:28.2
 2. ストルザノフ 18:41.0
 3. メチェロフ 18:55.6
 100背 1. バルビエル 1:05.6
 2. クヴァルディン 1:07.3
 3. セーロフ 1:07.4
 200バ 1. ルバチェフ 2:32.7
 2. サラジュク 2:33.0
 3. チェギレスキー 2:35.0
 800継 1. モスコ 8:41.5
 400混継 1. レーニングラード 4:20.2
 東ドイツ選手権 マグデブルグ 50m 8/24.25
 100背 1. ファイファー 1:07.7
 400自 1. ツィーロルド 4:40.0
 100自 1. グレゴール 58.8
 1500自 1. ツィーロルド 18:52.4
 200バ 1. シーベル 2:35.0
 200平 1. エンケ 4:43.3(41.1)
 ハンガリー選手権 ブダペスト 50m 8/31~9/1
 200自 1. ミューラー 2:11.1
 1500自 1. カニザ 19:00.3
 2. カトナ(15才) 19:01.2
 100背 1. マジャール 1:04.4
 100バ 1. ツンベク 1:02.3(欧新)
 200バ 1. " 2:29.8

オリンピック出場選手の亡命によって質が低下して
 いる模様。
 プレーメン(西ドイツ) 25m 9/1
 100自 1. ボーマン 55.8
 モンテカルロ 50m 9/2
 800自 モンセラ(仏) 9:28.6(欧新)
 1:04.9 2:15.5 3:27.0 4:38.2
 5:50.7 7:03.7 8:16.2
 ブルノ(チェコ) 50m 9/上旬
 100バ 1. パズディレク 1:04.5
 2. ホブカ 1:06.0
 国際軍隊選手権 カヌヌ 50m塩 9/4~7
 400自 1. モンセラ(仏) 4:37.2(42.1)
 2. コリニョン(仏) 4:38.7
 100背 1. クリストフ(仏) 1:05.8(04.5)
 2. コワニョ(仏) 1:07.5
 3. スワイゼン(和) 1:07.7
 1500自 1. モンセラ(仏) 18:12.0(欧新)
 1:06.4 2:17.5 3:29.7 4:42.0
 5:54.8 7:07.8 8:21.0 9:34.2
 10:47.8 12:01.3 13:14.8 14:28.9
 15:43.4 16:58.3
 2. コリニョン(仏) 19:26.0
 100自 1. シャーレットオ(仏) 58.9(58.7)
 2. フーグヴェルト(和) 59.0(57.7)
 400混継 1. フランス 4:27.9
 800継 1. " 8:58.3
 国際学生パリ 50m 8/31~9/8
 100背 1. ミールシュ(西ド) 1:07.2
 2. クヴァルディン(ソ) 1:08.1
 3. ヤスキーウイツ(波) 1:08.3
 100自 1. トレイユ(仏) 58.6
 2. ケーレル(西ド) 58.7
 200平 1. クロボトウスキー(波) 4:45.2
 ライプツヒ国際 50m 9/7.8
 200自 1. ツィーロルド(東ド) 2:07.2(ド新)
 1:00.7
 100自 1. ボーマン(西ド) 57.4
 2. グレゴール(東ド) 58.9
 100平 1. エンケ(東ド) 1:14.8(ド新)
 200平 1. フリッケ(東ド) 2:45.7
 2. ヒルベルグ(東ド) 2:45.7
 3. マルク(東ド) 2:45.7
 100バ 1. シーベル(東ド) 1:06.6
 2. ボーマン(西ド) 1:06.9
 200バ 1. ツィーロルド(東ド) 2:31.8
 400混継 1. ライプツヒ 4:33.3

第3泳者ツィーロルドはバタフライで1:03.6

イタリア78—42スウェーデン ジェノア 50m 9/7.8

- 100自 1. プ ッ チ (伊) 57.8
- 2. デンネルレイン (伊) 58.5

1500自 1. ロ マ ニ (伊) 19:12.8

100背 1. エ ル サ (伊) 1:07.7

400混継 1. イ タ リ ア 4:27.6

800継 1. " 8:54.5

200平 1. ラ ザ リ (伊) 2:44.8(伊新)

プレーメン (西ドイツ) 25m 9/8

100自 1. ボ ー マ ン 55.8

400自 1. ボ ー マ ン 4:33.2

100バ 1. " 1:03.8

スプリット (コゴ) 50m 9/中旬

100バ 1. ヴォルキャンセク 1:04.6(ユーゴ新)

ソ連—東ドイツ ライプツヒ 50m 9/14.15

100平 1. ミ ナ シ キ ン (ソ) 1:11.5(世新)

100自 1. ソ ロ キ ン (ソ) 56.6(ソ新)

2. ニ コ ラ エ フ (ソ) 57.3

3. ル コ ウ ス キ ー (ソ) 58.0

4. ツィーロルド (ド) 58.0(東ド新)

200バ 1. " 2:21.4(欧新)

400自 1. " 4:31.7

2. ニ キ テ ィ ン (ソ) 4:31.8

1500自 1. ス ト ル ザ ノ フ (ソ) 18:43.0

2. ラ ヴ リ ネ ン コ (ソ) 19:03.5

200平 1. ミ ナ シ キ ン (ソ) 2:40.8

2. ア ン ト ニ ア ン (ソ) 2:41.5

800継 1. ソ 連 8:27.1(欧新)

(ニコラエフ 2:05.6・ストルザノフ 2:07.9)
 (世最高)
 (ニキティン 2:07.2・ソロキン 2:06.9)

2. 東 ド イ ツ 8:50.1

400混継 1. ソ 連 4:19.4

2. 東 ド イ ツ 4:23.0

この競技会は世界友好大会と共に本年度の最も内容の充実した国際レースである。尙ツィーロルドは9月100バタフライに1:04.3の好記録を残している。

イギリス選手権 ブラックプール 55y 塩 9/14~17

(バルビエル 1:05.5・ミナシキン 1:12.3)
 (サガイデユク 1:05.8・ソロキン 56.1)

ジュニア

220y 自 1. ブラック (16才) 2:10.0

110y 巴 1. " 1:06.0

イタリーの背泳新人エルサ選手はユーゴとのジュニア対抗400混継泳の第1泳者として100背泳に1:05.6の伊新を出した。50mは30.9であった。

モスコウ 50m 10/22

400混 1. ス ト ル ザ ノ フ 5:12.9(世新)

バ1:07.7 背1:22.1 平1:31.0 自1:12.1

グートワルドフ (チェコ) 25m 11/2

100平 1. ス ボ ジ ル 1:11.0

イギリスの女子背泳選手ジュディ・グリーンハム (メルボルン, オリンピック優勝者) はコーチのラクストン氏の工夫した "ドルフィン式背泳" を11/27日ロンドンのテレビで初公開した。バタフライを裏がえしたような泳ぎで, グリーンハム選手は "この泳法は非常に疲れるが, スピードが出るので, 完成すれば背泳に革命を来すだろう" といっている由。

欧州記録 10/1 現在

100自 56.2 ジ ャ ニ ー 仏 1947

200自 2:05.2 標準記録

400自 4:30.1 ニ キ テ ィ ン ソ 連 1957

800自 9:28.6 モ ン セ レ 仏 1957

1500自 18:12.0 " " 1957

400継 3:52.4 標準記録

800継 8:27.1 ソ 連 チ ー ム ソ 連 1957

100背 1:03.0 標準記録

200背 2:20.2 "

100平 1:11.5 ミ ナ シ キ ン ソ 連 1957

200平 2:40.3 " " 1957

100バ 1:02.3 ツ ン ペ ク 洪 1957

200バ 2:21.4 ツィーロルド 東独 1957

400混 5:22.0 標準記録

400混継 4:18.0 "

南 米

リオデジャネイロ (ブラジル) 50m 7/22

400自 1. サ ン ト ス 4:36.6(南米新)

ア ジ ア

中共の自由形陣唯一の国際級選手, 林錦珠は北京において5/15.23の両日100m自に57.6の中共新記録を出した。旧記録は自己の57.8又8/25中共選手権で57.4をマークした。

イギリス男女チームは9月中共に遠征し交歓競技を行った。

中共—イギリス 北京 50m

100自 1. 林 錦 珠 57.3

200平 1. 戚 烈 雲 2:41.8

200バ 1. シ モ ン ズ 2:29.7

中共—イギリス 広州 10/4

100自 1. 林 錦 珠 57.9

100平 1. 戚 烈 雲 1:12.9

200バ 1. シ モ ン ズ 2:29.7

100背 1. リ グ ビ ー 1:08.3

400混継 1. 中 共 4:29.1

紙 上 日 米 ソ 対 抗 水 上

坂 本 宗 隆

フランスのスポーツ紙レキップ9/4号に「紙上日・米・ソ対抗」が載っている。筆者は水泳担当記者として著名なオープンハイム氏である。オリンピックの翌年で世界各国とも調子の落ちている中で、例外的な躍進をしているソ連と、メルボルンで苦杯をなめ、ばん回に必死の日米をかみ合せた企画もおもしろく、実力も伯仲して興味深い記事である。

オリンピックの競泳種目からリレーを除いた6種目で、各国の選手権大会の入賞者3名の決勝記録による対抗である。得点は1位1点、9位9点となっているので少い方がいいわけで、優勝は米3、ソ2、日1となり、米ソは接戦であるが、日本は大分ひき離されている。

100自 1. ソ ロ キ ン (ソ) 57.0

2. ハ ン レ ー (米) 57.3

3. 古 賀 (日) 57.4

4. キ ャ ス (米) 57.5

5. ニ コ ラ エ フ (ソ) 57.6

6. ア ン ダ ー ソ ン (米) 57.8

7. ゴ ロ ベ イ (ソ) 57.8

8. 東 野 (日) 58.5

9. 横 地 (日) 58.7

400自 1. 山 中 (日) 4:28.5

2. ニ キ テ ィ ン (ソ) 4:30.1

3. ブ リ ー ン (米) 4:35.1

4. ソ ロ キ ン (ソ) 4:38.2

5. オ ネ ケ ア (米) 4:39.9

6. ク リ オ ー コ フ (ソ) 4:40.0

7. 石 井 (日) 4:41.0

8. 林 (日) 4:43.8

9. キ ャ ス (米) 4:45.7

1500自 1. ブ リ ー ン (米) 18:17.9

2. 山 中 (日) 18:22.1

3. ニ キ テ ィ ン (ソ) 18:28.2

4. ス ト ル ザ ノ フ (ソ) 18:41.0

5. オ ネ ケ ア (米) 18:42.4

6. 石 井 (日) 18:51.4

7. メ チ ェ ロ フ (ソ) 18:55.6

8. 丸 山 (日) 18:57.6

100背

9. フ ォ ス (米) 19:09.6

1. マ ッ キ ニ ー (米) 1:04.5

2. バ ル ビ エ ル (ソ) 1:05.6

3. 長 谷 (日) 1:05.6

4. ク レ ッ プ (米) 1:05.8

5. 富 田 (日) 1:06.5

6. シ ョ ー フ ェ ー (米) 1:06.5(原文06.7)

7. ク ヴ ァ ル テ ィ ン (ソ) 1:07.3

8. セ ー ロ フ (ソ) 1:07.4

9. 山 下 (日) 1:07.8

200平

1. ア ン ト ニ ア ン (ソ) 2:40.8

2. ゴ ロ フ チ ェ ン コ (ソ) 2:42.8

3. ミ ナ シ キ ン (ソ) 2:43.2

4. 古 川 (日) 2:43.7

5. 豊 池 (日) 2:43.8

6. マ ト ソ ン (米) 2:45.6

7. ホ プ キ ン ス (米) 2:46.2

8. 吉 村 (日) 2:46.5

9. グ リ フ ィ ン (米) 2:46.5

200バタ

1. ヨ ー ジ ク (米) 2:22.0

2. 石 本 (日) 2:23.8

3. シ ョ コ (米) 2:28.0

4. 俵 口 (日) 2:28.6

5. 長 島 (日) 2:29.5

6. パ ー ト ン (米) 2:30.2

7. ル バ チ ョ フ (ソ) 2:32.7

8. サ ガ イ ダ ク (ソ) 2:33.0

9. チ ェ ギ レ ス キ ー (ソ) 2:35.0

得点 ソ連 86 アメリカ 87.5 日本 96.5 (97.5)

これで皆さんは満足でしょうか。(オープンハイム氏の誤算実際は 86.5) 今年古賀は 56 秒台を 2 度も出し、400 で北原は 40 秒を突破しており、1500 では山中はブリーンを凌ぎ、又バタの石本もヨーシクと同タイムをマークしている。オープンハイム氏の問題のとりあげ方が不都合だというのではなく、そのような方法もあるだろうが、それではわれわれは甚だ不満である。各国とも色々な競技会を持っており、選手の調子にも波がある。だからお互に絶好調のときの比較の方が妥当だと考える。

それで本年度の各選手の最高記録による3国のベスト3の対抗に修整してお目にかけてよう。得点は1位7点、2位5点、以下1点づゝを減じて6位1点とした。

- 100自
1. 古賀(日) 56.6
 1. ソロキン(ソ) 56.6
 3. ニコラエフ(ソ) 57.3
 3. ハンレー(米) 57.3
 5. キャス(米) 57.5
 6. ボレボイ(ソ) 57.8
 6. アンダーソン(米) 57.8
 8. 東野(日) 58.0
 9. 石原(日) 58.3
- 400自
1. 山中(日) 4:28.5
 2. ニキティン(ソ) 4:30.1
 3. ブリーン(米) 4:35.1
 4. オネケア(米) 4:47.8
 5. ソロキン(ソ) 4:38.2
 6. 北原(日) 4:39.2
 7. クリオーフ(ソ) 4:40.0
 8. 石井(日) 4:40.8
 9. キャス(米) 4:45.7
- 1500自
1. 山中(日) 18:17.1
 2. ブリーン(米) 18:17.9
 3. ニキティン(ソ) 18:25.2
 4. ストルザノフ(ソ) 18:41.0
 5. オネケア(米) 18:42.4
 6. 石井(日) 18:47.3
 7. ラブリネンコ(ソ) 18:48.7
 8. 北畑(日) 18:48.9
 9. フォス(米) 19:09.6
- 100背
1. マッキニー(米) 1:04.5
 2. バルビエル(ソ) 1:05.5

3. 長谷(日) 1:05.6
 4. クレップ(米) 1:05.8
 5. 富田(日) 1:06.1
 6. シェーファー(米) 1:06.5
 7. 二宮(日) 1:06.9
 8. クヴァレディン(ソ) 1:07.1
 9. セーロフ(ソ) 1:07.4
- 200平
1. ミナシキン(ソ) 2:40.3
 2. アントニアン(ソ) 2:40.8
 3. 古川(日) 2:42.0
 4. 豊池(日) 2:42.1
 5. ゴロフチェンコ(ソ) 2:42.8
 6. ホブキンス(米) 2:43.2
 7. ジャストロムスキー(米) 2:43.6
 8. 増田(日) 2:44.1
 9. マトソン(米) 2:45.6
- 200バタ
1. 石本(日) 2:22.0
 1. ヨーシク(米) 2:22.0
 3. 増永(日) 2:23.2
 4. シェコ(米) 2:28.0
 5. 武市(日) 2:28.1
 6. パートン(米) 2:29.2
 7. ルバチェフ(ソ) 2:32.7
 8. サガイダク(ソ) 2:33.0
 9. チェギレスキー(ソ) 2:35.0

得点 日本47 ソ連43 アメリカ42
 オッペンハイム式得点 " 88 " 90.5 91.5
 優勝 " 3 " 1.5 1.5

まことに物凄い激戦で、もしこれにリレーを加えるとソ日米の順になり、総得点ではソ日同点となる。ソ連が日米に対抗するほど伸びて来たことは今後大いに脅威である。さて来年はどうなるか。

(筆者は本連盟記録委員)

~~ パリー大会閉会式余話 ~~

パリー大会も無事に終ってホット一息、直ちにベルサイユ宮殿で全員揃って閉会式が催されました。シヤンペンがぬかれ全員勝った者も敗れた者もお互の健闘を祝して乾盃が行われ、華やかな閉会式の幕が切って落されました。約二時間好きな物をつまみ乍ら、そしてお互に戦の合った者が肩をたつきながら談笑している風景は誠になごやかなものでした。

その後、ベルサイユ宮殿を参観出来るというので明日の出発を気にしながらも、折角のチャンスと後について出掛けましたが、立派な庭園、そして噴水、音楽、ライト、と全く大道具よろしく、夜のベルサイユ宮殿の美しさをいかに浮上らせている中で、解説者がそのふんいきをいやが上に盛り上げる様な調子で、宮殿の故事来

歴をときつゝけているあたり、さすがフランスならではの演出に感心させられました。しかし言葉が解っての二時間余の参観なら誠に興味のあるものであるが、英語すらまともに解らない吾々に取ってはチンプンカンプン、持てあまして小さな声でササヤキ合っていると、まわりからシッシッと制止の声がとび、外に出て休もうにも背が小さいので前に陣取ったため出るに出来ず、全くもって閉口して了った次第です。フト頭上を飛行機がとぶ、それを見上げて明日からの遠征の事に頭を走らせ乍らともかく無事閉会式を終了、バスにゆられて宿舎に帰ったのが午前一時早速明日の荷造りを終えてホットして床に入り、明日からのオランダ遠征を無事に終れかしと祈りつゝ深い眠りに落ちて行きました。(T・H生)

第2回 日本泳法大会

山口 和 夫

期日 昭和32年8月11日(日) **場所** 奈良天理プール
日本古来の各流各派泳法の正しい保存とその普及発展を目的とする第2回日本泳法大会は、三笠宮同妃両殿下を御迎えして、快晴の天理プールで開催された。第1回に引き続き今回も天理の絶大なる協力を得たことは誠に感謝にたえないことである。この大会を契機として我国に古くから武術の一つとして発達して来た日本泳法を正しく保存し、又単に保存するだけにとどまらず、これら由緒ある泳法を研究し、人々をして理解せしめ、近代泳法とは別の面から水泳に対する関心を刺激し、少しでも多くの人々に水泳を愛好させるようにしたいものである。

開会式は午前10時より、各流派名の記されたブラカードを先頭に参加者が整列ののち、国旗掲揚、君が代斉唱、大会長代理白山源三郎氏の開会の辞によって始められた。

泳法競技

開会式に引き続いて25才以下の男女による泳法競技が52名泳者によって競われた。まず規定3種目が平体、横体、立体の順で行われ、7人の審査員によって、泳形、鍛練度、力、態度等といった面より総合的に評価され、各種目ごとに10点満点で採点されるのである。規定種目の成績によって、男子22名、女子7名が予選を通過し、午後の選択種目2種目で決勝を争うことになった。

正午、一たん休憩に入り、午後2時より再び泳法競技の決勝(選択種目)が行われた。

泳法競技入賞者

男子の部

1位 古藪純造(能島流芦屋) 33.9 2位 森川信行(小堀流京都) 32.4 3位 中田順章(能島流芦屋) 32.1 4位 井上裕之(水府流東京) 32.0 5位 都甲泰弘(能島流浜寺) 31.9 6位 小谷音一(小堀流京都) 31.9
6位迄の得点平均 32.2

女子の部

1位 堀江文子(神伝流岡山) 32.4 2位 水上幸子(能島流浜寺) 32.2 3位 中井慶子(能島流浜寺) 31.7 4位 藤原美哉子(小堀流京都) 31.5 5位 阿部由紀子(清記流矢野派石川) 31.3 6位 鷺田梅賀(神伝流津山) 30.8 6位 木戸成美(小堀流京都) 30.8
6位迄の得点平均 31.5

各流各派演技審査

午後4時より行われた各流派演技審査は各流派の練達の泳者40名による演技を、各流派の代表者によって構成されている審査員会によって評価されるもので、練達なる泳者と認められたものには「水練証」が授与された。

水練証受証者(出場順)

岡崎嘉比古(岩倉流和歌山) 石倉茂武(岩倉流和歌山)

内田 実(岩倉流和歌山) 小林亀次郎(踏水術京都)
林 新十郎(踏水術京都) 水瀬 正之(")
西条 興修(") 上京 広次(")
平賀 清(") 河内政治郎(")
井筒 清子(") 谷口 友一(神伝流広島)
長谷川順信(水府流水戸) 石原 梅男(神伝流津山)
森岡達治(水府流太田派東京) 三木 茂樹(神伝流倉敷)
安田 恒義(神伝流倉敷) 大月 毅(")
古谷嘉美彦(") 三宅 茂(")
高見礎志磨(") 米本 隆吉(水府流東京)
浜田奈良夫(能島流浜寺) 中島 欣一(能島流浜寺)
酒井 昌子(神伝流岡山) 須藤 省英(水府流水戸)
山ト 檜生(神伝流広島) 塚部 正(神伝流広島)
三上 公三(")

模範演技

各流各派演技審査に引き続き、各流派の代表者による模範演技が行われた。水府流の近藤茂氏の一重伸にはじまり、米山弘(水府流)、千葉真一(水府流太田派)、佐々木救(水府流太田派)、上野徳太郎(向井流)、巽忠藏(能島流)中尾保(能島流)加藤石雄(小池流)、中田留吉(小池流)、石名善積(神伝流)、松沢一鶴(神伝流)、阿部壮次郎(清記流矢野派)木村義夫(小堀流)梅野健夫(小堀流)高田利正(小堀流)の諸氏による模範演技は各流派の心髄を遺憾なく発揮したものであった。

公開演技

公開演技では水府流の大技手雁行、神伝流の竜戦、小堀流の揃立泳、浜寺水練学校の日本泳法のシンクロナイズドスイミングともいふべき「楽水群像」が行われ、大会の最後を飾った。

泳法競技に於いては、昨年第1回大会には小堀流踏水術の活躍がめざましかったが、本年は能島流が男女とも上位を占めたのが印象的であった。又得点の上でこそ昨年と比較しやや劣るが(第1回大会上位6名の得点平均男子34.0、女子32.5)内容的には、各泳者とも第1回の経験を生かして、非常に充実したものであった、規定種目3体についてであるが大会前夜の打合せ合での話し合いにもかかわらず一部にはそれが充分理解されていなかったようである。もっとも流派によっては、その3体の区別が明瞭でなく、又泳形の種類の少ない流派もあるのでこの点研究の余地があるように思われる。又本競技はその規定の中に「各種目になるべく基本的なものを選ぶこと」となっているにもかかわらず、基本的泳法とは思えないようなものが相当見られた。これはこの競技があくまでも各流派泳法をマスターする迄の初歩的段階として、若き泳者によって競われることによって、日本泳法の普及発展を目的として設けられたという趣旨からしてもこの点考えられるべきだと思う。

(筆者は本連盟普及委員)

本年度水泳指導者養成講習会

小 泉 正 延

本年度の中央に於ける水泳指導者講習会は、今春再発足した日本水泳指導者協会にゆだねられたので、そのいきさつと実施状況及び今後の要望等について述べ、大方の御批判を乞う次第である。

従来水連が文部省共催の下に全国都道府県から各々2, 3名の指導者を中央に集めて徹底した講習を行い、引続いて水連にて検定の上資格証を与えて来たのであるが、文部省ではこの方法にては、全国的に水泳の安全指導の強化を図る事は不充分であると、今年からは、水連共催で全国を9ブロック(松島, 鎌倉, 金沢, 浜松, 甲子園, 広島, 松江, 高知, 久留米)は別けて水泳安全指導講習会を実施する事になり、それと共に中央講習の共催は発展的解消といったかたちとなったのである。(本誌別欄記載参照)

処でこの制度は確かに一面には水難事故防止という目下の急務から画期的な方法で誰しも異論はないのであるが、そのため従来長く行われ成果を修めていた中央講習には共催とならなくなった事に遺憾な点が生じてくるのである。以下簡単に説明すれば、抑も中央講習は水連が「国民皆泳」という遠大な理想をかかげて、その基盤を築くためには先づ全国的に優秀な指導者を養成しなければならぬと、既に昭和5年から始められ、翌6年以降は指導者資格検定試験が実施され、次に7年からは標準泳法制定と、その後水連のみの主催にては全国的に指導者を集める事は出来ぬと、文部省共催となつては、益々軌道え乗り、当初から殆んど毎年(休んだ年は終戦の年1回のみ)一貫した目標の下に継続、会場を東京のみでなく関西その他の地方にも移し、回を重ねること30有餘回に及んでいる。これによって生れ出る資格者も年々増加し千数有名は全国に送り出している筈であり、尙それ等の同志によって全国的組織をなすに至っている現在である。折角軌道へ乗ったこの講習が文部省共催とならぬなればその結果は知れた事である。

もとより中央講習会及び検定試験にはその内容と方法に於て更に研究の余地もあり改正すべきものが多々あるが、中止状態となる事は一面退歩であり再考を要すべ

きではあるまいか、この事については普及部では再三協議して漸く中央講習と検定試験は実施する事にはなったが、ついに今年度は又部省共催とはならず講習会は指導者協会に委託し、検定は従前通り行う事になった。

以上の様ないきさつからこの主要行事の計画も延々遂にシーズンに這入ってしまったのである。指導者協会でも早急にその準備にとりかかったのであるが、幸にこの講習に全国的組織をもつ日本体育指導者連盟が共催を希望されたので、茲に両者による企画と諸準備が進められたのである。日体連からは、お茶の水女子大の林巖氏、並に学習院大学の鈴木正三氏の協力を得て凡てスムーズに運び、会場はお茶の水女子大プールと講義室等を借用してそれに当て、通知も周知方も同連盟の組織の手をかりる事となったので、一方には水連と指導者協会よりの通知と相俟って、後れ馳せ乍らも全国的に流れる事が出来た。次に期日であるが、既に検定試験は8月14~15日となっているのでプール使用と受験者の便とを考えて、その前の3日間即ち8月11日~13日としたのであるが、茲に又不都合の点は8月11日には天理プールで日本泳法大会が行われるので、講師陣に心配があったが、之も止むを得ぬ事にて、協会幹事の中から日本泳法に関係の少い方を選んで、漸く下記の様な要項と日程によって実施する事になったのである。

以下御参考に迄

- ①趣旨 日本水泳連盟水泳指導者資格を取得しようとする者に対して、水泳指導者に必要な知識技能を授け指導者としての資質をたかめるにある。
- ②参加者資格 現在水泳指導に当たっているか、将来指導者たらしとするもの、男女を問わず、満15才以上 定員 100名
- ③会費 300円 以下略

以上の通知の発送が7月中旬となってしまったため、参加数は次の通りであった。

東京 39, 千葉 5, 神奈川 3, 茨城 3, 埼玉1, 大分1, 計52名、職別としては、小, 中, 高の教職員が多く、他は学生, 社会人の順、男は28名、女は24名、例年に比

日 程 表

日 時	8月11日(日)	12日(月)	13日(火)
9.00	受 付	水 泳 医 事 岡 本 勤 一	水 松 沢 一 史 鶴
9.30	開 講 式 栗 本 義 彦 小 泉 正 延		競 泳 法 松 沢 一 鶴
10.00	水 泳 概 説 (標準泳法)	飛 込 競 技 法 生 江 哲 太 郎	
10.30	梅 田 利 兵 衛	水 球 競 技 法 金 子 子 巍	水 泳 管 理 宮 畑 虎 彦
11.00	初 心 者 指 導 法 左 近 允 正 矩	水 泳 指 導 に 関 する 協 議 等 米 谷 義 郎 延 小 泉 正 延	
11.30			
12.00	昼 休 食 憩	同	同 タイピング 協 会 員 数 名 に よ る 潜 水 具 使 用 実 験 見 学
1.00	実 補 助 体 操 吉 田 勝 平	実 補 助 体 操 浮 身 (40分) 吉 田 勝 平 立 泳 (40分) 小 泉 正 延	救 助 法 工 呼 吸 義 郎 講 米 谷 義 郎 技 郎 夫 外 実 米 谷 義 郎 加 藤 紀
1.30			
2.00	速 泳 (40分) 左 近 允 正 矩 他 1 名	飛 込 (40分) 牧 野 豊 一 郎 他 1 名	
2.30	背 泳 (40分) 伊 東 ひ で 子 他 1 名		
3.00	平 泳 (40分) 吉 田 勝 平 他 1 名	潜 行 (40分) 伊 東 裁 子 他 1 名	閉 講 式 白 山 源 三 郎 巖 林
3.30	横 泳 (40分)		
4.00	今 井 正 七 他 1 名		

司会進行係 小泉正延, 林巖, 鈴木正三, 松田保彦,
備考 別に初心者のみ受講者に特別指導あり(講師
乾康子)

し女子が多かった。(この内希望によりも初心者もあつたが、特別指導をした)

幸に天候に恵まれ、諸環境は凡てよく整い、万事スムーズに進められたのであるが、特に受講者が非常に熱心であった事、その真摯に満ちた雰囲気、各講師も諸係も終始担当部門を責任を持って完璧になされ、三者一体、極めて愉快の裡に予期以上の成果を得た事は、受講者を満足させると共に関係者一同の慶び且つ感謝しているところである。殊に松沢、宮畑両講師には9ブロックの講師を勤められた上、天理プールの日本泳法大会参加後、馳けつけられ、休息の間なく、尊い講義をされた事も一同の感謝した処である。

なお、本講習会に対して受講者及び関係者からの要望があつたので要約してみれば

- ①次回からは文部省と共催(或は後援)して全国からより多く教職員を集める様はかられたし。
- ②水泳講習会として最高権威であるものとして、更に周到な計画を立てられたし。
- ③期日は6月中旬(来年度は室内プール完備のため)に1回、尚夏休みの始即ち7月下旬に1回と2回位行ってほしい。
- ④来年度の検定試験の改正と相俟って、それにマッチした内容と方法を考究されたい。
- ⑤学生層、女子層よりの参加が出来やすい様、内容程度を一段と低めたものから段階的指導の講習会をこころみられたい。
(筆者は本連盟普及委員)

昭和 32 年度水泳指導者資格検定試験

主 催 日本水泳連盟

期 日 昭和32年8月14日(水)15日(木)

場 所 お茶の水大プール

受験者 男子 33 名 女子 16 名

合格者 男子24名女子6名(氏名別記)

近年にない多数の受験者と多数の合格者を得たことは欣ばしいことであつた。

合格者の方々の一層の精進を祈ると共に水泳普及発展のために今後共一層尽力されるよう大いに期待したい。

検定委員(五十音順)

上野徳太郎 梅田利兵衛 岡本頌一 菊田保孝 串田正夫
小泉正延 児玉博 小林高志 米谷義郎 斎藤武五郎
斎藤達夫 坂理博 左近允正矩 佐々木敦 笹島恒

輔 白山源三郎 高島弘 多治見祐孝 外山高一 内藤徹
原正一 牧野豊一郎 松沢一鶴 宮畑虎彦 森岡達治
吉田勝平

合格者氏名

(千葉) 篠塚春 遠森房子 福原仲次
(東京) 小林雅昭 十文字美博 谷原美子 吉川美津子
福西孝允 平野元一 前田利文 秋馬謙一 和田浩一
国広存 山県謙一 岡田全弘 宮永裕之 井上裕之 坂上肇
日高文雄 門雀準司 今野堅三 藤崎南海男 飯塚義一
加藤昂子 牧尾良典 小倉和子
(神奈川) 田中幸次 関栄次郎
(新潟) 猪爪誠子
(岐阜) 奥田英二

昭和32年度

定例代議員会

日時 昭和32年8月17日(土)
午前10時

場所 明治記念館

出席者

北海道水泳連盟	長尾平太郎	
青森県水泳連盟	吉田正四郎	
秋田県水泳連盟	三田 芳美	
岩手水泳連盟	瀬川 政雄	
山形県水泳連盟	新穂 八郎	
福島県水泳連盟	吉田 勝平	
新潟県水泳協会	中田 猛	
茨城県水泳連盟	中山 利生	多治見祐孝
栃木県水泳協会	神山 富雄	田中 武雄
群馬県水泳連盟	池谷 君夫	島本 長一
埼玉県水泳連盟	田島 金藏	
千葉県水泳連盟	川名 正義	広崎格五郎
	石井辰五郎	
東京都水泳協会	菊池 章	
神奈川県水泳連盟	藤平 雅保	庄川 鉄治
	鈴木 悟郎	
野尻湖游泳協会	北村博三郎	西沢 達雄
	高橋庄之助	
松本水泳協会	小林 高志	
山梨水泳連盟	石沢 羊一	小倉 一浩
静岡水泳協会	宮崎 正二	
浜名湾游泳協会	鈴木 清藏	井上 利夫
	金原 喜一	斎藤良一郎
豊橋水泳協会	清川 孝雄	
愛知水泳連盟	社本 義信	志村 義久
岐阜県水泳連盟	加藤 雄三	
富山県水泳協会	高田 秀男	
石川県水泳協会	阿部壮次郎	中上 正
	阿部由紀子	
福井県水泳協会	橋本 礼次	
三重水泳連盟	田村 正衛	
琵琶湖水泳協会	広岡徳治郎	
大阪水泳協会	木村 象雷	
奈良県水泳連盟	重松 利生	永田 万藏
	辻 豊彦	

和歌山県水泳連盟	池田 岩夫	小山 幸雄
兵庫県水泳連盟	原 剛中	
岡山県水泳連盟	池上 猷一	
鳥取県水泳連盟	三好 喬	坂田 収
広島県水泳連盟	鎌田 寿夫	今田 守
山口県水泳連盟	工藤 文雄	
徳島県水泳連盟	中山 健介	
愛媛県水泳連盟	深谷 俊明	
高知県水泳連盟	中山 順一	
福岡県水泳連盟	高木 恒夫	
大分県水泳連盟	安東昭次郎	
熊本県水泳協会	平田 忠彦	太田 茂幸
鹿児島県水泳協会	宮田 春雄	
関西支部	高石 勝男	
学生会	西本 竜三	志村 義久
	井上 融	大友洋太郎
	森川 武文	佐藤 宏史
	柴田 昭士	森谷 智
	平田 暢夫	
本部	小山賢之助	小出 靖彦
	安部輝太郎	関屋 悌藏
	杉本 伝	佐々木 救
	宮畑 虎彦	白山源三郎
	上野徳太郎	原 正一
	斎藤武五郎	菊田 保孝
	山崎 辰雄	外山 高一
	仁田順三郎	北村久寿雄
	穴道 洋一	栗村 中丸
	岩佐 道雄	内藤 徹
	岩合 伝	勝村 肇
	小川 道郎	牧野豊一郎
	串田 正夫	志村文一郎
	赤樫 卓爾	

欠席団体

宮城県水泳連盟	香川県水泳協会
京都水泳協会	伊豆駿河湾游泳協会
佐賀県水泳協会	島根県水泳連盟
宮崎県水泳連盟	長崎県水泳連盟
	沖縄水泳連盟

(議 事)

I) 一般報告 小山専務理事報告

1) 本年度の連盟本部の運営に付いて

従来に見ない30名という常務理事を選任し、本部の運営に当って来たが、之は役員夫々が生業を持っている関係上、多数の人が、少い労力で運営する事を考えたためであるが、30名という多数の常務理事が一ヶ所に集って会議する事は仲々困難であるので、実質的には委員長会議を屢々開催し、此処で、方針を決め、常務理事会で承認を受ける事とした。又常務理事会では、問題に対する方針、費用の総枠を決め、具体的にはその実施を各委員会に一任する方法をとった。

2) 泳法改正に付いて

慎重に検討したため、却ってシーズン初めに決定案が間に合わず混乱させた事となって遺憾であった。

3) 外国選手の招聘並に代表軍の遠征に付いて

a. 豪州選手の招聘に付いては種々先方と交渉したが、結局先方がシーズンオフである事が根本原因で実現出来なかった。

その他の外国選手招聘も結局実現しなかった。

b. 本年度の競技日程決定後、中共並ソ連よりの代表軍招聘があったが、日程の都合上断り、中共には、早大チームが遠征した。

c. FISUのパリ大会に水球の代表軍が参加する事と決定し、8月21日出発、大会後、オランダを往訪、9月20日頃帰国する予定である。

4) ジュニヤー水泳指導会に付き

本年度より、ジュニヤー水泳指導会を日本選手権大会と同時にを行い、選手権大会のプログラム内にジュニヤーの記録会を挟んで行う事となったが、之は、水泳連盟の年来の宿願である全日本中学校選手権大会開催を今日の状況下に於てはこの様な形で持つ事となったと諒解されたい。

これは、主体は練習会であり、本年は男子33名、女子25名、計58名を本郷に合宿させ、中体連と協同で練習会を開催した。

ここに至る迄種々の経緯があったが、文部省の体育審議会では、選手の選考は、水泳の国際的水準に達する見込のある者という点については、今後水連の定めた基準に従うという事が確認された。水連としてはローマのオリンピック大会迄はこの現在の基準を変えないこととして中学生の強化を計ることとした。

5) アジア大会に付いて

後に各委員長より報告するが、水連としてはローマオリンピックへの準備の一環として考えると共に明年度としては最強のチームを以て望むことと致したい。その詳細については、競泳委員会常務理事会に御一任願度い。只競泳については太田君を中心にやってくるつもりである。

6) 昭和33年度国民体育大会に付いて

体協としては陸上競技の秋季大会と一緒に夏季大会を富山県で開催するという方針を決めている。

水連としては富山県の準備状況に不安を感じたら、体協の線が決まっているので他処で開催するとも決めきれずにいる。

今後、体協と折衝の上、富山県で開催するならば準備に万全を期する事とし度い。然し若し万一富山県でやらないときまっても、体協の方針によりきまるのであるから、その時には他の府県の予算措置については十分に手配が出来る筈である。

7) 規約改正に付き

規約改正は前回の代議員会に於ける公約であるが、具体的に検討して見ると現行規約は会長独裁方式であり、之を加盟団体、地域ブロック、学生部会、高体連、中体連等と有機的な関聯を持ち乍ら、各委員会の積極的な活動により運営して行く方式に変える事を始め、顧問、評議員の機能的な役割の決定、各委員会の所轄範囲の整備等、種々問題があるので、慎重に考慮中である。

II) アジア大会関係

1) 志村常務理事報告

開催期日 昭和33年5月28日～31日

場 所 東京都室内プール

競技時間は入場者の関係から夕刻からという希望が体協からあったが、選手のコンディションを考えて昼から夕方とした。

競技会日程の詳細と種目別参加予定国に付き報告した。

又、アジア大会に要する競技用具その他に付いては水連より予算書を準備局に提出している旨報告す。

2) アジア大会用プールに付き、深谷施設委員長報告 (模型を会場に展示す)

完成は33年4月末

設計は、松沢氏、宍道氏並深谷委員長が、参劃した最新式プールである。

建坪4,500坪、収容人員は固定席3,000名、補助席1,000名、計4,000名、工費は6億3千万円。

飛込プールは漸新な六角形プールでスタンドに対し斜より飛込む事となっている。
換気、換水装置も整備している。

III) 各委員会報告

1) 外国関係 安部委員長

専務理事より一応報告済みであるが、それ以外にマレー並ハワイより選手の招聘があった。旅費の問題と競技日程の都合上何れも謝絶した。

インドより、コーチの招聘があり、人選の上、先方と条件に付き折衝中である。

平泳の泳法改正に付いて、種々論議したが、之は日本丈けではなくイギリスもアメリカも香港も同様に問題にしていた。

8月のユーゴのザークレイブでFINAの理事会があったが、特に問題がないので参加しなかった。世界記録等に付き、決定された様に新聞情報があるが、正式の連絡がないので詳細は不明である。

2) 競泳委員会 北村委員長

a. 本年度の競泳委員会は、従来の競泳委員会の担当事項即ち、競技会の運営、泳法規約の改正等の他に中学生以上の競泳に関する強化普及の仕事を担当する事となった。

競泳委員は14名であり、担当事項を3部門に分け夫々分担した。

即ち、① 規約改正、競技会運営に関する事項

② 競泳の実際指導

③ 地方並第一線で直接指導している方々への連絡

地方の加盟団体にも競泳委員を置くという案もあった。指導の部門で新しい泳法等を知った時、之を地方へ連絡し受容れて貰うためには加盟団体に各2名程度の競泳委員を設けて頂き度い。

中央の旗ぶりだけではどうにもならぬので、実際に選手を握ってられる方々の動き易い様に資料その他の供給連絡を今後共緊密にしたい。

b. 平泳、バタフライの泳法改正に付いては、慎重に構えたため、却って決定が遅れ、迷惑をおかけし、遺憾であった。

c. ジュニア水泳指導会

迂余曲折があり、今日の形態となったが、中学生の競泳の強化は今日の最大問題であり、中学生自体の指導と共に中学校の先生方に対する指導も行い度いと思っている。これを機会に中体連と好関係に入ることが出来たのは一つの収穫であった。

d. 将来に対する計画としては

i) 今日の一流選手の泳ぎをfilmに収めて活用する事。

ii) 東大の教授の援助を得て、泳法の流体力学的な解明を行い、泳法の研究をし度い。

iii) アジア大会の候補として高校生を多く入れ、冬期合宿に参加させる、

等を考えている。

e. アジア大会選手選考方法

日本選手権、日本学生、日本高校、勤労者、国体の5つの大会の成績を基本に第一次候補者を決め、冬期合宿(出来れば2回)に参加させる。この中より、第二次候補を選出、又、地方加盟団体の推薦者を審議の上、最終予選出場者を決定明年3月末に最終予選会を開催、この成績を基準に代表選手を決定する。

選考委員は常務理事会において、専務理事一任ときまだったが、別途発表の通りである(日本選手権プログラムに印刷した)

3) 普及委員会 白山委員長

普及部会は本年度より普及委員会となり、従来、普及部会内にあったプール建設、測定並機械審判器関係の部門は、施設委員会に、又、医事、救助法関係は、医事救助法委員会に夫々独立した。

従而、普及委員会は、下記の通りの分野となる。

① 講習、検定 米谷委員

② 日本泳法 多治見委員

③ 国民皆泳 内藤委員

④ 海 洋 小林委員

又外郭団体として

① 水泳史研究会 松沢委員

② 水泳指導者協会 小泉委員

を持つ

本年度の事業としては、下記の通りである。

① 日本泳法研究会 4月13~14日、伊東温泉プール 50名参加。

② 水泳安全指導講習会 文部省と共催 九州区に於て開催、全国約1,100名の受講者があった。

③ 第2回日本泳法大会

8月11日天理プールで開催。

約120名参加。

④ 水泳指導者検定 49名受検、27名合格す。

⑤ 海洋泳法、第10回初島遠泳、8月4日実施。

⑥ 国民皆泳大会 8月20日 武蔵野市菅プール。

⑦ 水泳指導者協会再発足

現在、資格者約1,200名の中、約600名を把

握した。

- 4) 飛込委員会 岩佐委員長代理
 - a. 飛込規約の改正があり、FINAよりの連絡を受け、之を記し、常務理事会の承認を得て公布した。
 - b. アジア大会、選手選考並合宿練習に付き、飛込の特殊性から、選考会は9月に行い、決定する。合宿は、冬季、本年末、来年初め、東大プール 春季、野沢温泉プール において行う予定である。
 - c. 飛込講習会 神宮プールにおいて例年開催しているが、逐年増加し、本年は約120名の参加を見た。
 - d. 「飛込の知識」を編纂配布したが、今後共普及に力を入れて行き度い。今回は、4種目に分けたパンフレットを作成する。
 - e. 中部高校大会には飛込の部が行われたが、今後各地方で機会ある毎に飛込競技を行う様御配慮願度い。
 - f. 日本選手権の女子飛込の渡辺、津谷両嬢の得点は日本最高得点で、水準の上昇を物語るものである。
- 5) 水球委員会 小川委員長
 - a. FISU大会参加の代表軍の日程に付き報告
 - b. 水球もチームのある地方が限定されているが、各地方で行われる様に各加盟団体の御協力をお願いし度い。
- 6) 施設委員会 深谷委員長 機械審判器を東大とNHKの協力により試作、日本選手権その他の大会で試用している。アジア大会迄に完成し度い。
- 7) 記録委員会 栗村委員長 競泳規約変更による日本記録の改正に付き、報告す。
- 8) 編集委員会 宍道委員長 「水泳」誌編集に新風を入れ度い。各位の協力をお願いする。 予算がある関係上、充分な事も出来ない。購読料の値上げも考慮中である。
- 9) シンクロ委員会 串田委員長 日本選手権並日米交歓シンクロ競技会に付いて報告開始以来日が浅いにも拘らず、水準の上昇は見る可きものがある旨報告す。

IV) 各大会に付いての報告

- 1) 日本高校選手権大会 勝村東京都水協専務理事 例年通り準備中である、本年度は女子の種目に若干の変更があった。又宿泊代が例年より20円/日値上

りしている。

- 2) 勤労者大会 藤平神奈川水連理事 参加者1,300名を見込み、265万円の予算で準備中である。 鎌倉市営プールは夜間照明の固有設備がないので、仮設する。 飛込は、400mの予選と同時に進行する事となるが諒解願度い。
- 3) 通信競技 栗村記録委員長 文部省より後援名儀使用許可を得た。中体連との関係に付き迂余曲折があったが、明年度以降は共催という事を前提に準備する、各地方に於ても中体連とよく連絡して、協力して実施願度い。 朝日より、終了時間を午後3時30分迄にして欲しいとの要望があるので検討する。
- 4) 国民体育大会 鈴木浜名湾游泳協会会長 元城プールを補修、県、市を挙げて準備中である。
- 5) 水泳教室 赤檜競泳委員 西部 7月23~27日 久留米及び瀬高プール 東部 7月28~8月1日 天理プール に於て開催した。参加はわずかに19県であり、もっと積極的に参加して欲しい。又開催期間も正味1週間 は欲しい。

V) 合計事情報告 小出会計理事

水連の合計は、収入面では、日本選手権の入場料その他の収入と賛助会員よりの賛助金、加盟分担金、プール公認料、その他で例年は約600万円、支出面では経常費約400万、競技会経費、プール代、強化費その他計800万円で、200万円程度の赤字となる。これを4年に一度の日米対抗の収入によってカバーしており、然も例年の日本選手権も、又日米対抗もその日の晴雨により大きな影響を受けるといった極めて不安定な状態にある。これを安定させるためには、加盟分担金乃至は寄附金といった例年コンスタントに見込める資金のルートを確立する事が必要である。強化といっても先立つものは金であるので、この点に付いても各位の認識と御協力をお願いする。

(1/7月の収支経過報告書を配布す)

ール) 競泳委員会, 中学通信競技打合せ会

16日(金) 日本選手権水上競技大会始る (神宮プール)

17日(土) 代議員会(明治記念館)

18日(日) 日本選手権水上競技大会終る

19日(月) 水球代表仕行会(明治記念館) 学生常任委員会

20日(火) 国民皆泳大会(全国)

22日(木) 水球代表出発

23日(金) 日本高校選手権水上競技大会始る (神宮プール)

25日(日) 同大会終る 全国中学通信競技大会(全国)

26日(月) 学生総務委員会, 関東学生メンバー交換会(体協)

27日(火) 日米交歓シンクロ競技大会 (神宮プール)

28日(水) 米国シンクロ歓送会(椿山荘)

31日(土) 全国勤労者水上競技大会 第1日 (鎌倉プール) 関東学生選手権水上競技大会 (神宮プール)

9月1日(日) " 第2日
" 第2日

2日(月) 日本学生大会メンバー交換会

学生水球委員会

3日(火) 水球委員会

6日(金) 日本学生選手権水上競技大会(神宮プール)

7日(土) " (")

8日(日) " (")

9日(月) 日本泳法委員会

10日(火) 競泳委員会

12日(木) 常務理事会

16日(月) 普及委員会

18日(水) 機械審判器打合せ会

20日(金) 水球代表帰国 日本泳法座談会

22日(日) 国民体育大会水上競技大会始る (浜松プール)

25日(水) " 終る

10月3日(木) 常務理事会

4日(金) 普及委員会

5日(土) 指導者協会幹事会

7日(月) 飛込委員会

8日(火) アジア大会候補選手選考会

9日(水) 記録委員会

10日(木) 常務理事会

12日(土) 水球代表歓迎会(体協)

16日(水) 水球アジア大会候補選手選考会 普及部反省会(錦糸町プール)

24日(火) 常務理事会

編集後記 年の暮を迎へ皆様御多忙の事と存じます。本号の発行は我々委員が柱と頼む委員長の御病気等の突発事故で大変遅くなり一同申し訳なく存じております。次号年鑑号を予定通り出す事で多少なりとも罪滅しをしたいと一同張切っております故御期待下さい。(菊池)

編 集 委 員 (アイウエオ順 ◎印委員長)

上野 徳太郎 川田 友之 金田 平八郎 金子 巍 菊池 章
 串田 正夫 三枝 美貴子 志村 文一郎 島田 桃一郎 ◎穴道 洋一
 鈴木 祐一 高橋 静子 多治見 祐孝 中村 雅明

日 本 水 泳 連 盟
機 関 雑 誌

水 泳

第 117 号

昭和 32 年 12 月 10 日 印 刷
昭和 32 年 12 月 15 日 発 行

日 本 水 泳 連 盟

編 集 兼 発 行 人 穴 道 洋 一

印 刷 所 株 式 会 社 成 島 印 刷 所
東 京 都 中 央 区 日 本 橋 本 石 町 3 の 4
電 話 日 本 橋 (24) 1701・6509・7082

定 価 (年 4 回 発 行)
1 年 分 ¥300.- (予 約 申 込 者 に 限 り 頒 布) 1 ヶ 年 前 金 予 約 は 郵 送 料 不 要。

東 京 都 千 代 田 区 丸 ノ 内 2-2
丸 ビ ル 722 区

発 行 並 申 込 所 日 本 水 泳 連 盟

電 話 和 田 倉 (20) 3090・4885 番
振 替 口 座 東 京 5178 番



伊豆国立公園
河津温泉郷

峯温泉

日観連会員
公社協定

菊水館

別館 峯温泉プール

Tel. (川津浜) $\left\{ \begin{array}{l} 18 \\ 218 \\ 219 \end{array} \right.$

真冬でも適温にて競泳出来る

温度調節自由の日本水連公認プール

25米 5コース 深1.3米

施設 収容人員200名様

露天、内風呂、家族風呂、
貸切、合せて大小12浴場
舞台付大広間 ホール、テ
レビ、ピンポン、麻雀

宿泊料 一般1000円より、団体800円
より 学生400円より

案内所 東京 日本橋堀留町1の11
みくに会
Tel. (66) 5766

名古屋 中区南大津通3の6
Tel. (24)4792

大阪 浪速区北日東町 138
Tel.(64)7664

御申込は最寄りの交通公社各案内所

弊館直営案内所
又は直接弊館へ

